

日本消防



- 第24回全国消防操法大会運営委員会を開催
- 消防団情報プラザ リニューアル

- 絵 平成26年春の叙勲伝達式（消防関係） H26.5.14（水） 於 ニッショーホール
- 平成26年春の褒章伝達式（消防関係） H26.5.16（金） 於 スクワール麹町
- 平成26年4月15日（火）群馬県桐生市における林野火災
- 平成26年4月27日（日）岩手県盛岡市における林野火災

巻頭言「来たるべき事態に備えて」～日々精進～ ……	(公財)香川県消防協会 会長 大西 光雄 ……	1
日消の動き「新法施行も120年記念事業に」 ……	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 ……	3
第24回全国消防操法大会運営委員会を開催 ……	(公財)日本消防協会 ……	4
特別表彰「まとい」を受章して「地域の防災リーダーを目指して！」		
……………	大仙市消防団 団長 草薨 忠誠 ……	6
東西南北（京都府）安心安全のまちづくりを女性団員とともに…	南丹市消防団 団長 小林 敏雄 ……	8
東西南北（福島県）未曾有の災害の中、市民を守る消防団 ……	南相馬市消防団 団長 長澤 初男 ……	10
東西南北（埼玉県）「花と歌舞伎と名水の町」の消防団 ……	小鹿野町消防団 団長 大旗 徹 ……	12
シンフォニー（広島県）「すてきな仲間と消防活動」 ……	福山市消防団 部長 土屋 いづみ ……	14
平成26年春の叙勲伝達式・褒章伝達式 ……	総務省消防庁 ……	16
CTIF本部訪問と女性消防隊員ワーキンググループ会議に参加して		
……………	女性消防団アドバイザー 長谷川 祐子 ……	32
風水害に対する備え ……	総務省 消防庁 防災課 ……	37
「消防団をより多くの人達に知ってもらいたい」消防団情報プラザ リニューアル		
……………	(公財)日本消防協会 ……	38
平成26年度消防個人年金海外視察のご案内 ……	(公財)日本消防協会 ……	40
群馬県消防協会及び栃木県消防協会に災害対策支援金を交付 ……	(公財)日本消防協会 ……	42
消防団の活動を支援するー日本消防協会オリジナル商品 ……	(公財)日本消防協会 ……	43
うちの名物団員 ……		44
消防団の広場（千葉県）「未来をひらけ女性消防団員」 ……	浦安市消防団 団員 芹澤 恵美 ……	46

編集後記

表紙写真説明

美山かやぶきの里

国の重要伝統的建造物群保存地区『美山かやぶきの里』。かやぶき民家を火災の類焼から守る放水銃の点検のため、毎年5月20日と12月1日に一斉放水を行っています。全国から多くの写真愛好家が訪れます。

(京都府南丹市美山町)

平成26年春の叙勲伝達式（消防関係）

平成26年5月14日（水） 於 ニッショーホール



平成26年春の褒章伝達式（消防関係）

平成26年5月16日（金） 於 スクワール麹町



平成26年4月15日（火）群馬県桐生市における林野火災

写真提供 毎日新聞社



平成26年4月27日（日）岩手県盛岡市における林野火災

写真提供 盛岡市



「来たるべき事態に備えて」～日々精進～

(公財)香川県消防協会 会長 大西 光雄



私の住むまち観音寺市は、瀬戸内海に面した香川県の西の端に位置し、奈良時代から四国88か所霊場第67番札所「観音寺」第68番札所「神恵院」の門前町として栄え、江戸時代には四国と近畿地方を結ぶ流通と商業のまちとして繁栄し、明治時代には全国で85番目の人口規模を有していたそうがあります。現在は農業、漁業、商業、工業のバランスが取れた、非常に暮らしやすいまちでもあります。

また、四国山脈と讃岐山地の北側に位置し、瀬戸内海に面した雨の少ない温暖で、台風災害についても比較的大きな被害が発生しにくい地域でもあります。過去に発生した度重なる南海地震でも、甚大な被害を被っておらず、災害の少ないまちだと自負している次第です。

さて、全世界は今、地球温暖化対策としてCO₂の削減に取り組んでいますが、欧州の一部の専門家は、地球はすでに氷河期に突入していると述べており、その理由として、北極の氷が、昨年より60%も増えており、その様子が衛星の画像で、確認できると言っております。北米では、猛吹雪に見舞われて死者が出ており、日本でも、各地で今までに経験したことのない積雪量となっております。台風による暴風、豪雨、洪水や崖崩れ、土石流、高潮などに加え、

豪雪による雪害も決して無視することができないのではないかと考えています。

また、決して忘れてならない3年前の東日本大震災では、2万人近くの方々が亡くなったり、行方不明となられました。犠牲になられた方々に対して哀悼の心を禁じえません。そして我々の仲間も水門や陸閘閉鎖、避難誘導の職務にあたって254人が殉職いたしました。その地域住民を守ろうとする強い使命感と責任感に感服申し上げるとともに、心より哀悼の誠をささげたいと思います。

東日本大震災の被災地の現況は、今なお27万人を上回る避難者を数え、集団移転などの事業は緒に就いたばかりと、まだまだ復興には程遠い状況で、被災された方々には、希望と勇気を持って頑張っていたいただきたいと思う次第です。

今、南海トラフを震源とする地震の発生が懸念されており、内閣府の地震調査研究委員会の長期評価では、30年以内に70%の確率で発生をするといわれております。私たちの住む香川県においても、内閣府や香川県からは最大クラスの地震によって、甚大な被害が発生するとの予測が公表されました。

このことから、香川県をはじめ市町、香川県消防協会では、防災対策の強化に取り

組んでおり、私の所属する消防団（香川県観音寺市）では市と一体になり、地震対策、津波対策、ため池対策のマニュアルを作成し、次々と変化する国からの情報を基に修正しながら、地域住民の生命、財産を守るため、訓練に励んでいるところであります。

また、国においては、われわれ消防団の重要性を再認識され、この度、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が、昨年の臨時国会において成立いたしました。こうした中、われわれ消防団は、団員の確保、女性消防団員の加入促進等の機能別消防団の設置にも重点を置かなければならないと考えております。

香川県消防協会では、県下女性消防団意見発表会なるものを実施し、女性消防団員を取り巻く環境と課題について、大いに議論を重ね、今後の発展を誓ったところであります。また、平成26年2月12日には平成25年度消防団長等幹部研修会を開催し、愛媛県松山市消防局の消防団員確保アドバイザー、香川県カウンセリングセンター長のお二人を講師にお招きし、ご講演いただき、幹部一同大変参考になったものと考えております。

私たち消防団は住民の信頼を得た地域に根差した組織でなければなりません。今後とも、日々精進を重ね、県民の安全・安心を確実なものにし、火災に対する消防活動はもとより、台風や集中豪雨などへの水防活動や、明日起こるかもしれない南海トラフを震源とする地震に備えてまいりたいと



決意を新たにしているところであります。

今後とも、関係機関との連携を強化し、県土からの被害をできる限り減じてまいりますので、関係各位のこれまで以上のご支援、ご指導をお願い申し上げます。



新法施行も120年記念事業に

(公助)日本消防協会 会長 秋本 敏文

自治体消防65周年記念大会開催に当たって、消防団120年を大会の名称に加えることにした時、実はこの大会だけを記念事業とするのではなく、長い日本消防の歴史のなかで将来の発展をめざすうえで、前後数年を含めて記念事業にふさわしいものがあれば、それらを含めて「消防団120年」記念事業にすることもあり得ると考えながらふくらみをもたせる「120年」としました。

そんな気持ちをもちながら、私は、昨年11月の記念大会の式辞で、国会でご協議中の新法をできる限り早期に成立させて頂き、新法と記念大会を日本消防の新たな発展へのスタート台としたいと申しあげました。そして、ご承知のとおり「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。

この新法は、まさに画期的な内容のものであり、これも消防団120年記念のひとつだと、ちょっと一方的かもしれませんが、消防団としてはそのように受けとめていいのではないかと思います。

さて、そのように考えながら、新法に直接関連することをいくつか実行しています。まず、新法のわかりやすい解説パンフレットを作成して全国に配布しました。これは、消防の皆さんだけでなく、首長さん、議会議員の皆さんなどまで広くご理解いただくために活用して頂きたいと思います。

また、この新法の成立で懸案がただちに解決するものではありません。法律の条文としてはどうしてもいわゆる努力義務規定が多くならざるを得ませんので、その法文の趣旨を実現する具体的な措置の実行が大事です。そのため、日本消防協会として、法律の趣旨を実現するために必要な事項について、国等に対し意見を提出することとします。いくつもの課題があり、そう簡単には実現できないことも多いのですが、粘り強く取り組んでいかなければならないでしょう。

8月29日に、東京有楽町の東京国際フォーラムで「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」を開催します。新法に書かれていますように、大きな災害などの時は特にそうですが、常備消防や消防団だけでなく、住民の皆さんの総力を結集した地域の総合的な防災力が大事です。そこで、この大会では消防関係者だけでなく広く各界の皆さんにご参加頂くことにし、地域の消防防災活動の実例をご紹介してご理解を頂き、ご協力の輪をさらに大きくしたいと思っています。これは、消防団活動に対するご認識を一層深める機会にもできると思います。

このようなことの積み重ねで、新法施行も消防団120年記念事業のひとつになったなあ実感できるようにしたいものです。

第24回全国消防操法大会 運営委員会を開催

(公財)日本消防協会

平成26年4月18日(金)日本消防会館において、第24回全国消防操法大会運営委員会が開催され、大会の「基本方針」について協議した結果、次のとおり決定されました。

第24回全国消防操法大会基本方針

1 目的

全国消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の充実発展に寄与することを目的とする。

2 主催

消防庁、公益財団法人日本消防協会

3 共催(予定)

東京臨海広域防災公園

4 協力(予定)

東京都、一般社団法人東京都消防協会、東京都消防長会、東京消防庁

5 日時

平成26年11月8日(土)午前9時00分(雨天決行)

6 会場

東京臨海広域防災公園
東京都江東区有明3-8-35

7 大会運営委員等

別表1のとおり

8 出場隊等

(1) 出場隊は、都道府県ごとにポンプ車又は小型ポンプのいずれか1隊とする。また、操法種別については、前回大会に出場したものと異なる操法種目とする。(別表2)

ただし、開催地である東京都は、兩種目出場とする。

(2) 出場隊の指揮者は、班長以上の階級の者とする。

9 消防操法種別

(1) ポンプ車操法

ア 手びろめによる二重巻ホース2線延長(各線ホース3本)

イ とび口操作及び水出しを付加する。

ウ 収納は省略する。

(2) 小型ポンプ操法

ア 手びろめによる二重巻ホース1線延長(ホース3本)

イ とび口操作及び水出しを付加する。

ウ 収納は省略する。

(3) 操法要領は、第23回全国消防操法大会実施要領に準じる。

10 使用ポンプ、車両及び機材

使用ポンプ、車両及び機材は、原則として出場隊の持ち込みとする。

11 審査

(1) 審査基準は、消防庁及び公益財団法人日本消防協会において定める。

(2) 審査内容については非公開とする。

(3) 審査に対する苦情等は一切受理しないこととする。

(4) 大会日あるいは大会途中において、降雨等があっても審査には考慮しないものとする。

(5) 各隊の操法タイム及び総得点を公表する。

12 審査員

(1) 審査員の人数及び担当都道府県は、大会運営委員会において定める。(別表3)

(2) 審査員は、都道府県消防協会会長の推薦する者とする。

13 表彰

(1) 各操法とも10位までを表彰する。

(2) 優勝 各操法1隊
優勝隊には、消防庁長官賞(優勝旗は持ち回り)のほか、日本消防協会会長賞が授与される。

(3) 準優勝 各操法3隊

(4) 優良賞 各操法6隊

(5) 優秀選手賞 各操法の各操作員1名

14 その他

その他必要な事項については、大会運営委員会で定め別途通知する。



【会議風景】

第24回全国消防操法大会大会運営委員等名簿（別表1）

平成26年4月1日現在

大会運営委員長	原 正之	日本消防協会理事長
大会運営副委員長	満田 誉	消防庁消防大学校長
〃	生嶋 文昭	日本消防協会常務理事
大会運営委員	横田 真二	消防庁総務課長
〃	河合 宏一	消防庁地域防災室長
〃	門倉 徹	消防庁消防大学副校長
〃	石田 詔夫	東京都消防協会会長
〃	大島 英治	神奈川県消防協会会長
〃	坂田 秋雄	埼玉県消防協会会長
〃	大澤 正明	群馬県消防協会会長
〃	石橋 毅	千葉県消防協会会長
〃	葉梨 衛	茨城県消防協会会長
〃	伊澤 幸一	栃木県消防協会会長
〃	横内 正明	山梨県消防協会会長
〃	羽藤 公夫	長野県消防協会会長
〃	大江 秀敏	東京都消防長会会長
〃	関 政彦	東京消防庁防災部長
審査長	満田 誉	消防庁消防大学校長
副審査長	河合 宏一	消防庁地域防災室長
審査員	24名	指定都道府県消防協会会長の推薦者

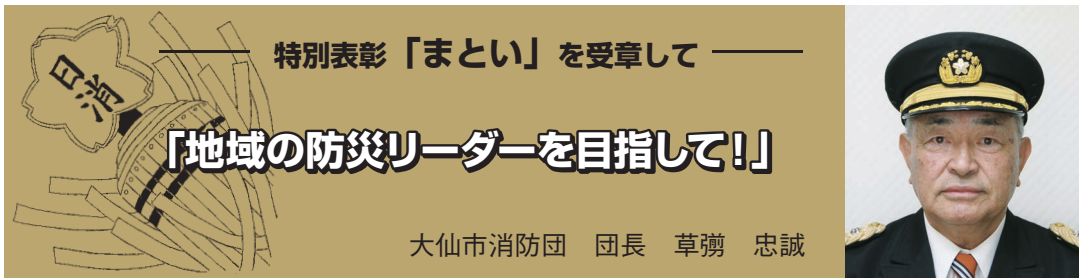
第24回全国消防操法大会都道府県別出場種目（別表2）

番号	ポンプ車の部	小型ポンプの部
1	和歌山県	広島県
2	静岡県	鹿児島県
3	神奈川県	鹿児島県
4	東京都	滋賀県
5	三重県	青森県
6	富山県	岩手県
7	徳島県	大分県
8	福井県	千叶県
9	長崎県	石川県
10	北海道	兵庫県
11	熊本県	岐阜県
12	山形県	京都府
13	高知県	愛媛県
14	大阪府	東京都
15	埼玉県	群馬県
16	茨城県	佐賀県
17	長野県	福賀県
18	宮崎県	福岡県
19	秋田県	新潟県
20	取巻県	奈良県
21	沖縄県	山梨県
22	香川県	愛知県
23	福岡県	山口県
24	栃木県	宮城県
計	24隊	24隊

第24回全国消防操法大会審査員指定都道府県（別表3）

ポンプ車の部審査員	小型ポンプの部審査員
青森県	北海道
岩手県	秋田県
千葉県	山形県
愛知県	神奈川県
岐阜県	長野県
京都府	静岡県
奈良県	大阪府
鳥根県	鳥取県
山口県	徳島県
大分県	高知県
佐賀県	福岡県
鹿児島県	
12名	11名
時評審査員 東京都	

- ※1 ポンプ車の部審査員は、小型ポンプの出場隊の都道府県とする。
- ※2 小型ポンプの部審査員は、ポンプ車の出場隊の都道府県とする。
- ※3 東京都は両種目出場のため、計時審査員とする。



○はじめに

平成26年2月28日に開催されました第66回日本消防協会定例表彰式において、消防団として最高荣誉である特別表彰「まとい」を拝受いたしました。この度、大仙市消防団が受章できましたことは諸先輩団員が築き上げてきた良き伝統と、消防関係機関、市民の皆様からの大きなご支援の賜物であると心から感謝申し上げます。

また、消防団活動を陰から支えてこられました団員ご家族の皆様に対しましても重ねてお礼申し上げます。

○大仙市の紹介

大仙市は秋田県内陸南部にあり、平成17年3月に8市町村が合併し誕生しました。仙北平野の中央部に位置し、県内有数の肥沃な穀倉地帯で、生活文化を農業とともに創り上げてきた田園商業都市であります。8月第4土曜日には「全国花火競技大会」が開催され、

明治43年から始まった花火大会も昨年で102年を迎えました。全国から選抜された一流の花火師たちが日本一を目指し、精魂込めて制作した花火を自らの手で打上げ、花火の美しさ、豪快さに観光客を魅了する国内で最も権威ある大会であります。

○消防団の活動

大仙市消防団は市町村合併とともに発足。旧市町村消防団の体制を踏襲した支団編成を採用し、現在8支団45分団、団員数1,325名（うち女性39名）で活動しており、今年で設立10年目を迎えました。当市の人口は8.8万人であります。8月下旬に開催される全国花火競技大会では、全市民の8倍にあたる70万人余の観光客を迎え、消防団員が大会関係機関と連携し、万全を期して警戒業務にあたり来場者の安全確保に努めております。

また、東日本大震災の際には、団員やOBの皆様が市民ボランティアの先陣としていち早く名乗りを上げ、市が岩手県遠野市や陸前高



栗林市長への受章報告



全国花火競技大会

田市に設置致しました「だいせん応援ハウス」から被災地へ支援を実行してまいりました。

更に、平成23年6月の集中豪雨により、河川が氾濫した際には、土嚢積みや船による避難誘導等により市民の安全を守るため水防活動にあたりました。

平成24年4月4日には風速38メートルという爆弾低気圧により市内全域において甚大な風害が発生したなかで、消防署員と連携し、倒木処理や独り世帯老人の安否確認に努めるなど、災害時での消防団活動に對しまして、多くの市民から感謝の意を頂いております。

平成22年度から募集を始めた女性団員も現在39名が活躍しており、広報活動・災害現場における後方支援（炊き出し、救護等）を担い、また女性ならではのきめ細やかさ、やさしさのある活動で市民に安心を与えられるよう努力しております。発足当初は、手際よく活動ができないことが数多くありましたが、行事・訓練を積み重ね、昨年10月には、第21回全国女性消防操法大会へ秋田県代表として初出場し、男性団員に負けじと奮闘してまいりました。男性団員も小型ポンプ操法の部で全国大会出場を目指し、日々訓練に励んでおります。

一方、本市における昨年の火災件数は30件でありましたが、一昨年の42件から減少傾向



浸水地区での船による避難誘導活動

にあり、日頃の火災予防活動や、市や消防署と連携して取り組んでいる「住宅用火災警報器設置」の啓発活動が功を奏してきたものと感じております。

この度「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行されました。

このことにより、今後の消防団活動では、消防団協力事業所や地域の自主防災組織と連携した訓練や、市民の防災意識の高揚を図れるよう啓発活動等を実施し、地域の防災リーダーとして地域に密着した「安全安心なまちづくり」を心掛けていくとともに、市民の生命と財産を守るため、信頼に応えるべく自己研鑽してまいります。

〇おわりに

近年は、豪雪、地震、水害と自然の猛威を痛感させられる日々が続いておりますが、それを跳ね返すよう日々訓練を重ね、あらゆる災害に対応できる消防団を目指し精進してまいります。

最後に、今回の受章にあたり格別のご配慮を賜りました日本消防協会、秋田県消防協会をはじめ消防関係機関各位の皆様へ深く感謝を申し上げ、受章のあいさつとさせていただきます。



女性消防団員による軽可搬ポンプ操法



「安心安全のまちづくりを 女性団員とともに」



南丹市消防団 団長 小林 敏雄

1 南丹市及び南丹市消防団の概要

南丹市は、京都府のほぼ中央部に位置し、北は福井県と滋賀県、南は兵庫県と大阪府に隣接する面積616.31km²（京都府の13.4%）、人口33,778人（平成26年3月1日現在）のまちです。地勢については、緑豊かな自然に恵まれた地域で、大半を丹波山地が占め、北部を由良川が、中・南部を淀川水系の桂川（大堰川）が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成されています。

平成18年1月1日に、園部町、八木町、日吉町、美山町の4町が合併して南丹市が誕生したのと同時に、旧4町の消防団も合併し、南丹市消防団が発足しました。旧4町の消防団をそれぞれ園部支団、八木支団、

日吉支団、美山支団とし、現在、南丹市消防団本部が4つの支団と女性分団およびラップ啓発部を管轄しています。

2 女性分団について

女性分団は平成24年4月に編成され、防火啓発を主な活動とし、現在団員数17名で活動中です。

女性分団編成当初、それぞれの団員はさまざまな思いをもって入団しましたが、全員が1からのスタートであったため、女性分団として一体何をするか、何をすべきか、話し合うところから始まりました。

「男性団員と対抗して負けることよりも、女性団員のほうがうまくできることを中心的にやっ払いこう」と活動がスタートしました。

3 女性分団の活動について

特に重点的に行っているのが、ケーブルテレビによる啓発番組です。毎月3分程度の放送ですが、女性分団で1番組を持ち、企画・原稿作成・撮影・出演などを行い、番組を制作しています。暖房器具を多く使う冬には家庭内の火



制服姿で消防をPR

の元チェック、夏には子ども向けに人形劇による花火を題材とした防火啓発と、季節ごとの防火防災対策に触れ、今年で3年目を迎えています。防火防災および減災について、どのようにすれば市民の皆さまに関心を高めていただけるのか試行錯誤で進んでおります。毎月継続して予防啓発を行うことで、市民の皆さまに親しんでいただくとともに、女性分団の活動の意義を

認めていただけるのではないかと考えています。今回新たな挑戦として、団員募集CMを制作しました。これは南丹市消防団員の活動写真が、音楽にのせてメッセージとともに出てくる構成にし、消防団員になりたい、また消防団員にとっては消防団に入っていることが誇りに思えるような内容となるよう心掛けました。

チラシやポスターの作成、広報誌に防災コーナーを設けていただき執筆するなど、南丹市消防団の広報部隊としての活動を重点的に行っているかいあってか、南丹市消防団女性分団の知名度も少しずつ上がってきています。

これからの女性分団の活動は、啓発活動だけではなく、訓練もしっかり行っていきたいと考えています。

4 南丹市消防団の今後の展望

これまでの経験から、消防団員にとって災害活動を知るとい



「旬」な情報をお届けします

とは原点であり、現場を知らないと、いざというとき何もできない、ということを痛感しています。災害から地域の人たちを守るためには、私たち消防団員は、経験・知識の裏付けが必要であり自己研さんに努めなければなりません。市民の皆さまに信頼していただける消防団であるため、団員の日々の努力が不可欠であると思います。

市民の皆さまの協力のもと、安心安全のまちづくりを女性団員とともに行っていきたいと考えています。



心を一つに市民のために



「未曾有の災害の中、 市民を守る消防団」



南相馬市消防団 団長 長澤 初男

1 南相馬市の紹介

現在の南相馬市は、平成18年1月1日、旧小高町、旧鹿島町、旧原町市の1市2町が合併して誕生しました。

南相馬市の位置は、福島県浜通りの北部で太平洋に面し、面積は398.5km²です。東京からの距離は292kmで、いわき市と宮城県仙台市のほぼ中間にあります。

また、国指定重要無形文化財で、一千有余年の歴史と伝統を誇る相馬野馬追は、毎年7月の最終土曜日、日曜日、月曜日の三日間、南相馬市を中心とした相馬、双葉両地方にわたる豪華絢爛な祭りで、「世界一の馬の祭典」とも評され、鎧、兜に身を固めた騎馬武者たちが先祖伝来の旗差物をなびかせる様は、正に戦国時代さながらの一大行事です。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響により、小高区全域及び原町区南部においては現在も避難指示が継続しており、自由に居住できない状態が続いております。また、鹿島海岸で遡上高20.8mを記録した大津波



南相馬市消防団（春季検閲式）

により、沿岸部は壊滅的な被害を受けました。地震被害を含め5,815棟の建物が全壊し、床上浸水は999棟を数えます。平成26年3月12日現在で、震災及び津波による直接死者数は636名（遺体未発見者含む）、災害関連死者数は452名であり、計1,088名の方が犠牲となっております。

2 南相馬市消防団の概要

南相馬市消防団は新市誕生を機に、小高町消防団、鹿島町消防団、原町市消防団の三団体が統合し発足しました。団員定数1,356名、3区団、15分団、100部にて組織されています。

消防車両等の資機材については、指令車2台、水槽付ポンプ車2台、ポンプ車7台、

小型ポンプ付積載車87台を配備し、地域住民の生命・身体・財産を守るために日夜活動しています。

東日本大震災の影響により、南相馬市消防団では9名の団員が犠牲となりました。いずれの方も、津波からの避難広報活動や救助活動中に被害に遭われております。想定外の災害とはいえ、消防団員の避難を徹底させることができず、誠に忸怩たる思いです。また、車両17台、詰所21ヶ所が津波により被災し、原子力発電所事故の影響により、多数の団員が市外に避難を余儀なくされるなど、消防団としても大きな被害を受けました。

その一方で、南相馬市消防団の被害状況を知った他の消防関係団体の皆様から、活動服や防災用品、そしてポンプ車や小型ポンプ付積載車に至るまで、多くのご支援をいただきました。これら寄贈された品々により、震災後の消防団活動を円滑に行うことができました。消防人としての絆がいかに素晴らしいものか、改めて気づかされた次第です。

3 南相馬市消防団の活動

この度の震災に際し、南相馬市消防団としては主に沿岸部の避難広報、逃げ遅れた住民の救助、夜間における避難所等の警防活動、そして、犠牲となられた方の遗体捜索を行いました。震災当初は人、情報、物資の全てが不

足し、非常に厳しい状態でしたが、被災者の帰りを待つご家族のため、警察、自衛隊と共に1ヶ月以上に渡り不休の捜索活動を行いました。

4 終わりに

南相馬市小高区では全域が避難指示区域に指定されたままであり、沿岸部では住民の集団移転が進みつつあります。更には原子力発電所事故の影響による避難住民の問題など、組織再編も含め、南相馬市消防団を取り巻く状態は非常に厳しいものがあります。

しかし、平成26年3月には、震災で被害を受けた小型ポンプ付積載車17台の復旧・再配置が行われるなど、万全とは言えませんが、消防力も回復しつつあります。

消防団無くして、地域住民の安心はありません。南相馬市消防団は、今後とも団員一丸となり、南相馬市の復旧復興、地域住民の安全安心のため活動していきたいと考えています。



南相馬市消防団原町区団（一斉放水訓練）



「花と歌舞伎と名水の町」 の消防団



小鹿野町消防団 団長 大篠 徹

1 小鹿野町の紹介

小鹿野町は埼玉県の西北部、秩父山岳地帯のほぼ中央部に位置し、県内の町村では面積が171.45km²と、最も広い町域を有し広大な山岳地帯を抱えています。

小鹿野町の早春の野山は、町の花セツブンソウ・フクジュソウ・ロウバイなど可憐な花で彩られます。セツブンソウの自生地は日本一の規模を誇り多くの山野草ファンを魅了しています。

小鹿野歌舞伎は、江戸時代から続く伝統文化で埼玉県指定無形文化財になっており、子供歌舞伎・女歌舞伎・学校歌舞伎など、多彩な取組が見られます。

また、多くの消防団員も地芝居の役者として舞台にあがります。



テレビ中継塔

平成20年6月に環境省から「平成の名水百選」に選定された毘沙門水や、両神山や二子山の清流、丸神の滝や油滝などの名瀑、尾ノ内溪谷を流れる恵み豊かな水など、小鹿野町の緑や水はたいへん豊かです。

2 小鹿野町消防団の紹介

小鹿野町消防団は、平成17年10月の合併により小鹿野町、両神村の消防団が合併し発足しました。組織は支団制を採用し、1団5支団28分団、団員数は現在555名で構成されています。車輜は、団本部指令車1台、水槽付ポンプ車3台、ポンプ車1台、小型動力ポンプ付タンク車2台、小型動力ポンプ付積載車32台を配備しています。また、特筆すべきは、平成26年4月現在、約1万3千人の人口の町に550名以上の消防団員が存在することです。

また、小鹿野町消防団は、消防操法について近年埼玉県下有数の実績を残しています。出場した第25回（平成20年度）及び第27回（平成24年度）埼玉県消防操法大会において、小型ポンプの部で続けて優勝し、その結果埼玉県代表として出場

した、第21回、第23回全国消防操法大会では、優良賞を2回とも受賞しています。消防操法の訓練は長期間にわたるため、選手や支援する団員も大変ですが、団員のスキルアップには有効であり、今後も機会があれば挑戦していきます。



消防操法大会

3 消防団の活動

小鹿野町では近年、火災の発生件数は年7～8件で比較的少なくなってきました。町域が広く山岳地帯が多いことと、常備消防署から離れた場所で火災が起こった場合は、地元消防団が先着することも多いため、常備消防との密接な連携をとりながら活動しています。

平成12年2月には、不父見山にて大規模な山林火災が発生し、長期間にわたり延焼し54haを焼失しました。全体の8割が山岳地帯の小鹿野町においては、山林火災における水利の確保が課題となります。そのため、タンク車を平成25年度・26年度に各1台配備して頂き、水槽付車輛を6台体制で活動していく予定です。

小鹿野町消防団は、火災を想定した非常招集訓練等は各支団毎に行い、各支団で工夫し、毎年それぞれ有効な訓練を行っています。また、他支団の訓練をお互いに見学し、団幹部で訓練毎に意見交換会を開催しています。

4 終わりに

小鹿野町消防団においても、現状は大変厳しいものがあります。夜間とはまったく日中地元にいる団員は少なく、少子高齢化や過疎化、若者の都市部への流出など、消防団員のなり手そのものが先細りしていくのが現状です。ただ、消防団を取り巻く現状には厳しいものがありますが、私を始め、小鹿野町消防団の団員全てが、生まれ育ったこの小鹿野町を愛し、自分たちの地域は自分たちで守るという強い信念をもち今後も活動していく所存です。



消防特別点検



シンフォニー（広島県）

「すてきな仲間と消防活動」

福山市消防団 部長

土屋 いづみ

私たちが住む福山市は広島県の南東部に位置し、瀬戸内海に面し温暖で暮らしやすい地域です。

「100万本のばらのまち」をめざし、市内のあちこちでばらを見ることができます。

福山市消防団は、1本部・8方面隊・61分団・団員数2850人で構成され、私たち女性消防団員は平成18年4月に団員数26人で発足し、平成20年から部長・班長を決め、現在は広報制作・総務・訓練の3つの委員会に分かれて、月に一度は全員で活動できるように、定例会・規律訓練・普通救命講習などを19歳から54歳の幅広い年齢層の30人で活動しています。

活動内容は、手作りの防火紙芝居にまた今年度は寸劇を取り入れ、手作りの小道具で火事の原因・もし火事になったら・もし体に火がついたらどうしたら良いのかを幼稚園・保育所へ訪問し、また地域の方たちにも伝えて防火啓発活動をしています。

現在7人の団員が応急手当指導員の資格



福山市消防団ローズファイヤー

を取得し、地域の自主防災活動のときに消防局の方と一緒に救命講習を行ったり、またやり始めたばかりですが地域のイベントなどには寸劇で胸骨圧迫・AEDの使い方を伝え、一人でも多くの方が心肺蘇生法を行えるように普及活動もしています。

自分の命は自分で守れる！また周りの人の命も守ることが出来る！

命の大切さをしっかり伝えたいと思います。出初式ではカラーガード隊が福山市音楽隊の演奏に合わせてフラッグの演技をします。

当初はフラッグの振り方も分からず大変

苦労しましたが、今では自分たちで曲に合わせて振りも出来るようになりました。

手作りの衣装から今は素敵な衣装も作って頂き、毎回ドキドキしながら演技をしています。

福山の大きなお祭りの5月のばら祭りにも参加し、スカウトが来るのではないかと思います。うほどカッコ良いです。

ばらの町福山にはばらのイメージキャラクター「ローラちゃん」がいて、先日はローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）のイベントで私たち女性消防団員をもっと沢山のの人に知ってもらおうとアピールするために、恋するフォーチュンクッキーを楽しく踊りました。

また広報誌「レディースファイヤー福山」を私たちの活動を知ってもらうために年2回作成していますが、今は消防関係者対象なのでこれからは地域の方たちにも見て頂けるように、広報誌の内容も充実させていこうと考えています。

紙芝居や小道具作り、広報誌、踊りにしても団員の行動力や発想力は素晴らしいです。私はこんな頼もしい30人と消防活動ができてとても幸せです。

今私たち女性消防団員は火災、災害現場への出動はありませんが後方支援ができればと思います、消防団員の自覚を持ち訓練を多く積み、少しでもお役にたてるよう頑張りたい



ふれあいコンサートで音楽隊とカラーガード隊の共演

と思っています。

ほとんどの団員が家事、子育て、仕事をしながらの活動なので時間が限られますが、出来る時に出来る事をと家族や職場の協力を得て楽しく活動しています。

警防課の皆さんや各分団長さんに助けて頂いて私たちの活動ができるのだと感謝しつつ、女性ならではの活動、独居老人宅訪問、ポンプ操法とまだまだいろいろな活動の輪を広げていきたいと思いますが、「今私たちにできること」を見つめなおし地域の安全と安心をめざし、一致団結して頑張りたいと思います。



地域住民への救命講習

平成26年春の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

◇ 春の叙勲（消防関係）

平成26年5月14日（水）、ニッショーホールにおいて、平成26年春の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

瑞宝小綬章	33名
旭日双光章	3名
瑞宝双光章	94名
瑞宝単光章	491名

◇ 春の褒章（消防関係）

平成26年5月16日（金）、スクワール麹町において、平成26年春の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、

業界の発展に大きく寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々です。

紅綬褒章	1名
黄綬褒章	5名
藍綬褒章	80名

◇ 第22回危険業務従事者叙勲（消防関係）

平成26年5月12日（月）、日比谷公会堂において、第22回危険業務従事者叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与された方々です。

瑞宝双光章	349名
瑞宝単光章	283名

平成26年春の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 双	北 海 道	元 富良野広域連合中 富良野消防団 団長	大 竹 福 男 (77)	瑞 単	北 海 道	元 西十勝消防組合清 水消防団 副団長	岩 野 正 明 (76)
瑞 双	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	木 村 朝 日 (74)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合栗 山消防団 団長	梅 津 周 平 (75)
瑞 双	北 海 道	元 北留明消防組合羽 幌消防団 団長	じい 實 藤 吉 信 (72)	瑞 単	北 海 道	元 恵庭市消防団 副団長	梅 原 美 弘 (74)
瑞 双	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合新十津川 消防団 団長	すず 杉 本 正 人 (71)	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 安平消防団 副団長	うら 漆 坂 興 作 (73)
瑞 双	北 海 道	元 士別地方消防事務 組合士別市消防団 団長	すず 鈴 木 豊 (70)	瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合真狩消防団 副団長	おお 大 井 良 一 (74)
瑞 双	北 海 道	元 深川地区消防組合 秩父別消防団 団長	たか 高 崎 馨 (74)	瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組 合富良野消防団 副分団長	たけ 乙 部 勉 (75)
瑞 双	北 海 道	元 深川地区消防組合 妹背牛消防団 団長	たか 高 田 喜一郎 (70)	瑞 単	北 海 道	元 苫小牧市消防団 副団長	か 加 納 孝 雄 (73)
瑞 双	北 海 道	元 日高中部消防組合 三石消防団 団長	たか 高 野 久 光 (70)	瑞 単	北 海 道	元 帯広市消防団 分団長	か 加 納 信 義 (78)
瑞 双	北 海 道	元 上川北部消防事務 組合菅威子府消防 団 団長	なか 中 村 善 二 (78)	瑞 単	北 海 道	元 渡島東部消防事務 組合榎法華消防団 分団長	わか 川 口 伸 悦 (72)
瑞 双	北 海 道	元 美瑛市消防団 団長	か 矢 部 正 義 (73)	瑞 単	北 海 道	元 南十勝消防事務組 合広尾町消防団 副分団長	か 神 戸 満 (77)
瑞 単	北 海 道	元 南十勝消防事務組 合広尾町消防団 分団長	あい 相 津 恒 男 (81)	瑞 単	北 海 道	元 網走地区消防組合 東藻琴消防団 分団長	くま 熊 谷 正 昭 (71)
瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事 務組合岩見沢消防 団 副団長	あき 秋 山 芳 信 (78)	瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防 事務組合石狩消防 団 分団長	栗 生 新 一 (69)
瑞 単	北 海 道	元 美瑛市消防団 副団長	さい 齊 藤 邦 男 (70)	瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 分団長	は 長 谷 川 秀 男 (72)
瑞 単	北 海 道	元 函館市函館消防団 副団長	さい 齊 藤 健 一 (72)	瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合 訓子府消防団 分団長	は 浜 出 勝 治 (70)
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合別海消防団 分団長	さか 阪 口 九 一 郎 (73)	瑞 単	北 海 道	元 釧路市消防団 副分団長	ひら 平 野 明 (80)
瑞 単	北 海 道	元 札幌市中央消防団 分団長	さ 佐々木 幸 三 (86)	瑞 単	北 海 道	元 歌志内市消防団 副団長	ふか 深 田 利 美 (73)
瑞 単	北 海 道	元 釧路東部消防組合 厚岸消防団 副団長	さ 佐 藤 春 吉 (76)	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 副団長	ふく 福 島 等 (71)
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合標津消防団 副団長	しん 新 川 福 二 (75)	瑞 単	北 海 道	元 八雲町消防団 分団長	ふる 古 澤 壽 孝 (71)
瑞 単	北 海 道	元 西胆振消防組合杜 警消防団 副団長	たか 高 橋 保 次 (76)	瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組 合富良野消防団 分団長	まえ 前 田 政 志 (75)
瑞 単	北 海 道	元 日高西部消防組合 日高消防団 副団長	たけ 武 田 卓 也 (72)	瑞 単	北 海 道	元 南宗谷消防組合枝 幸消防団 分団長	まさ 升 田 傳 治 (78)
瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合南 幌消防団 団長	たけ 玉 木 武 雄 (71)	瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合大津消防団 副団長	まつ 松 村 信 季 (74)
瑞 単	北 海 道	元 千歳市消防団 副団長	と 登 坂 善 一 郎 (73)	瑞 単	北 海 道	元 西胆振消防組合豊 浦消防団 副団長	あ 三ッ谷 征 夫 (70)
瑞 単	北 海 道	元 留明消防組合留明 消防団 団長	と 飛 島 弦 二 (74)	瑞 単	北 海 道	元 上川北部消防事務 組合名寄消防団 副団長	のり 襲 輪 健 二 (74)
瑞 単	北 海 道	元 札幌市清田消防団 分団長	と 土 門 一 夫 (84)	瑞 単	北 海 道	元 日高東部消防組合 えりも町消防団 分団長	ふか 村 田 末 敏 (75)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合鶴居消防団 副団長	やまぐち ひろみ 美 (71)	瑞 単	青 森 県	元 野辺地町消防団 副団長	たかやま たけあき 光 (72)
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 厚沢部町消防団 副団長	やま だ 善之 (71)	瑞 単	青 森 県	元 平賀町消防団 分団長	あ しま まさき 喜 (74)
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合仁 木消防団 副分団長	よし だ せん 助 (80)	瑞 単	青 森 県	元 三厩村消防団 分団長	なり た とも 一 (72)
瑞 小	青 森 県	元 八戸地域広域市町 村圏事務組合 消防正監	やま だ ひろし (70)	瑞 単	青 森 県	元 横浜町消防団 分団長	にし ほし 洋一 (74)
瑞 双	青 森 県	元 青森地域広域消防 事務組合 消防正監	さ とう 清 美 (70)	瑞 単	青 森 県	元 木造町消防団 分団長	はら がわ 行 大 (74)
瑞 双	青 森 県	元 板柳町消防団 団長	しの 崎 藤 三 (75)	瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	ふく し 昭 一 (73)
瑞 双	青 森 県	元 中泊町消防団 団長	なり た 勝 蔵 (74)	瑞 単	青 森 県	元 大鰐町消防団 分団長	ま 前 利 正 (72)
瑞 双	青 森 県	元 十和田市消防団 団長	やま 崎 誠 一 (69)	瑞 単	青 森 県	元 森田村消防団 分団長	もり 盛 嘉 則 (76)
瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 分団長	い ね 葉 清 (71)	瑞 単	青 森 県	元 八戸市南郷消防団 副団長	わか みや まさ 政 勝 (70)
瑞 単	青 森 県	元 佐井村消防団 副分団長	さか 本 秀 雄 (76)	瑞 双	岩 手 県	元 種市町消防団 副団長	たか 城 邦 夫 (73)
瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	きた 北 城 政 弘 (75)	瑞 双	岩 手 県	元 矢巾町消防団 団長	たち ばな 純 幸 (70)
瑞 単	青 森 県	元 十和田湖町消防団 副団長	せいの 博 輝 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 八幡平市消防団松 尾地区団 副団長	お 乙 部 昭 夫 (67)

瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 副分団長	かわ 川 自 直 弘 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 分団長	たて 下 昇 平 (87)
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 分団長	きく 池 實 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 副分団長	にい の 野 萬 蔵 (81)
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 副団長	こん 野 忠 三 (69)	瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 分団長	の 野 田 正 三 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 種市町消防団 分団長	さい 齋 藤 兼 一 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	はな 花 籠 勝 久 (75)
瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 副団長	さ 藤 一 男 (64)	瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	ひら 平 籠 良 孝 (76)
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	さ 藤 茂 昭 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	ふじ 藤 原 健 (79)
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 副団長	さ 藤 幸 男 (71)	瑞 単	岩 手 県	元 松尾村消防団 分団長	まつ 松 尾 圭 祐 (82)
瑞 単	岩 手 県	元 衣川村消防団 副団長	さ 藤 良 一 (81)	瑞 双	宮 城 県	元 大衡村消防団 団長	いし 石 川 明 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 石鳥谷町消防団 分団長	たか 高 橋 一 仁 (84)	瑞 双	宮 城 県	元 仙台市泉消防団 団長	い 伊 藤 孝 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 和賀町消防団 副団長	たか 高 橋 武 司 (80)	瑞 双	宮 城 県	元 美里町消防団 団長	おおく 大 久 保 順 夫 (72)
瑞 単	岩 手 県	元 和賀町消防団 副団長	たか 高 橋 義 作 (83)	瑞 双	宮 城 県	元 涌谷町消防団 団長	くろ 黒 田 一 郎 (76)
瑞 単	岩 手 県	元 湯田町消防団 分団長	たか 高 橋 美 通 (77)	瑞 双	宮 城 県	元 登米市消防団 団長	しん 主 藤 敏 寛 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	千 葉 幸 雄 (74)	瑞 単	宮 城 県	元 角田市消防団 分団長	佐 藤 敏 男 (78)
瑞 双	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	三 浦 榮 壽 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 南三陸町消防団 副団長	佐 藤 安 正 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 女川町消防団 分団長	阿 部 榮 喜 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市太白消防団 副団長	庄 子 勝 博 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 色麻町消防団 分団長	伊 藤 剛 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 河南町消防団 分団長	菅 原 武 敏 (87)
瑞 単	宮 城 県	元 白石市消防団 副団長	岩 松 義 則 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 石巻市消防団 分団長	千 葉 八 治 (83)
瑞 単	宮 城 県	元 名取市消防団 分団長	大 内 正 一 (82)	瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	寺 嶋 英 宏 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 大河原町消防団 団長	大 沼 秀 一 (73)	瑞 単	宮 城 県	元 山元町消防団 副団長	永 谷 富 雄 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 柴田町消防団 分団長	加 茂 貞 夫 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 岩出山町消防団 分団長	畠 山 信 一 (85)
瑞 単	宮 城 県	元 亶理町消防団 副団長	菅 野 公 夫 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 岩沼市消防団 分団長	星 隆 男 (81)
瑞 単	宮 城 県	元 多賀城市消防団 分団長	熊 谷 正 男 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 岩沼市消防団 副団長	三 品 富 雄 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 中新田町消防団 分団長	今 野 嗣 郎 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	村 上 賢 一 (78)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市南方町消防団 団長	佐 藤 一 男 (70)	瑞 双	秋 田 県	元 南外村消防団 団長	今 野 恭 男 (73)

瑞 双	秋 田 県	元 仙北町消防団 団長	佐 藤 舜 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 仙北市角館消防団 副団長	高 橋 昭 郎 (71)
瑞 双	秋 田 県	元 羽後町消防団 団長	佐 藤 壽 一 (68)	瑞 単	秋 田 県	元 北秋田市消防団 団長	中 村 信 一 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 増田町消防団 分団長	遠 藤 孝 一 郎 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	鳴 海 斌 三 (82)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	追 留 吉 雄 (79)	瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	長 谷 部 宣 治 (79)
瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 分団長	小 田 嶋 吉 郎 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 岩城町消防団 副分団長	原 敬 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	小 原 善 市 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 分団長	半 田 勝 司 (76)
瑞 単	秋 田 県	元 三種町消防団 団長	小 玉 運 市 (68)	瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	藤 田 良 次 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 能代市連合消防団 能代消防団 分団長	小 玉 忠 勝 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 美郷町消防団 分団長	藤 谷 恭 造 (76)
瑞 単	秋 田 県	元 井川町消防団 副団長	小 武 海 清 熙 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 天王町消防団 分団長	藤 原 勝 雄 (84)
瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 団長	佐 々 木 善 廣 (71)	瑞 小	山 形 県	元 鶴岡地区消防事務 組合 消防正監	佐 藤 弘 (70)
瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 分団長	佐 藤 勝 太 郎 (76)	瑞 双	山 形 県	元 山辺町消防団 団長	相 澤 嘉 助 (66)
瑞 単	秋 田 県	元 仙北市消防団 副団長	佐 藤 富 一 (70)	瑞 双	山 形 県	元 新庄市消防団 団長	浅 沼 喜 治 郎 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 形 県	元 庄内町消防団 分団長	あり 賀 市 男 (66)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	坂 本 甚 一 (68)
瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 副団長	おお 大 瀧 久 吉 (66)	瑞 単	福 島 県	元 柳津町消防団 団長	つが 角 田 久 一 (65)
瑞 単	山 形 県	元 最上町消防団 分団長	お 尾 形 勝 好 (65)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	さ 藤 堂 喜 好 (65)
瑞 単	山 形 県	元 鶴岡市櫛引消防団 副団長	けん 鋳 持 正 (65)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	に 二 瓶 駿 次 (70)
瑞 単	山 形 県	元 小国町消防団 分団長	と 田 中 安 雄 (66)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	さ 藤 野 喜 昭 (65)
瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 分団長	ち 主 田 好 夫 (69)	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	ふる 古 川 勝 義 (71)
瑞 単	山 形 県	元 鶴岡市消防団 分団長	はし 橋 本 正 輝 (72)	瑞 単	福 島 県	元 南会津町消防団 分団長	はし 星 庄兵衛 (72)
瑞 単	福 島 県	元 三島町消防団 分団長	い 五十嵐 正 一 (78)	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	み 水 野 一 郎 (66)
瑞 単	福 島 県	元 岩代町消防団 団長	う 移 川 文 彌 (69)	瑞 単	福 島 県	元 喜多方市消防団 副団長	か 峯 岸 圭 衛 (65)
瑞 単	福 島 県	元 国見町消防団 分団長	おお 大 津 利 勝 (75)	瑞 単	福 島 県	元 田村市消防団 副団長	わた 渡 辺 博 光 (65)
瑞 単	福 島 県	元 伊達市消防団 副団長	お 小 野 武 夫 (71)	瑞 双	茨 城 県	元 那珂市消防団 団長	う 海 野 野 藤 男 (71)
瑞 単	福 島 県	元 南相馬市消防団 分団長	か 鎌 田 弘 一 (77)	瑞 双	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 副団長	か 上 久 保 修 (68)

瑞 双	茨 城 県	元 筑西市消防団 団長	あ 富 田 宏 司 (72)	瑞 単	栃 木 県	元 南那須町消防団 団長	ず 須 藤 孝 一 (67)
瑞 双	茨 城 県	元 高萩市消防団 団長	ほ 細 金 秀 隆 (73)	瑞 単	栃 木 県	元 那須町消防団 団長	む 室 井 祐 一 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 五霞町消防団 団長	さい 齊 藤 直 春 (67)	瑞 小	群 馬 県	元 伊勢崎佐波広城市 町村圏振興整備組 合消防正監	く 栗 原 康 二 (70)
瑞 単	茨 城 県	元 古河市消防団 副団長	しの 篠 崎 卓 (66)	瑞 小	群 馬 県	元 前橋広城市町村圏 振興整備組 合消防正監	た 武 井 壯 恵 (70)
瑞 単	茨 城 県	元 坂東市岩井消防団 団長	す 鈴 木 功 (70)	瑞 双	群 馬 県	元 大泉町消防団 団長	ず 須 藤 圭 男 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 つくば市消防団 副団長	す 鈴 木 治 夫 (65)	瑞 双	群 馬 県	元 高崎市消防団 副団長	よ 横 堀 敏 郎 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 副団長	ず 須 田 正 行 (71)	瑞 単	群 馬 県	元 みどり市大間々 消防団 団長	い 今 泉 修 司 (64)
瑞 単	茨 城 県	元 美野里町消防団 副団長	ほん 本 多 幸 一 郎 (79)	瑞 単	群 馬 県	元 みどり市東消防団 団長	か 金 子 一 登 司 (64)
瑞 単	茨 城 県	元 日立市消防団 副団長	みや 宮 本 一 夫 (72)	瑞 単	群 馬 県	元 吉井町消防団 団長	よし 吉 田 整 美 (71)
瑞 単	栃 木 県	元 那須塩原市西那須 野消防団 団長	おお 大 谷 津 浩 (67)	瑞 小	埼 玉 県	元 比企広城市町村圏 組 合消防正監	は 関 根 敏 正 (70)
瑞 単	栃 木 県	元 西方町消防団 団長	か 上 田 保 雄 (67)	瑞 双	埼 玉 県	元 吉川市消防団 団長	か 岡 野 種 嗣 (67)
瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 分団長	さ 佐 藤 三 郎 (76)	瑞 双	埼 玉 県	元 新座市消防団 団長	か 笠 原 幹 男 (72)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	埼 玉 県	元 宮代町消防団 団長	こ 小 島 利 信 (76)	瑞 単	千 葉 県	元 芝山町消防団 団長	い 岩 澤 幸 男 (74)
瑞 双	埼 玉 県	元 秩父市大滝消防団 団長	ち 千 島 進 (72)	瑞 単	千 葉 県	元 長生都市広城市町 村圏組合消防団 副団長	お 大 和 久 寛 喜 (80)
瑞 単	埼 玉 県	元 蕨市消防団 副団長	お 奥 田 清 支 (72)	瑞 単	千 葉 県	元 匝瑳市消防団 団長	お 及 川 重 幸 (65)
瑞 単	埼 玉 県	元 鴻巣市消防団 副団長	か 金 子 孝 司 (73)	瑞 単	千 葉 県	元 成田市消防団 団長	さ 佐 藤 弘 弘 (69)
瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市浦和消防 分団長	こ 栗 原 幸 一 (78)	瑞 単	千 葉 県	元 山武市消防団 団長	お 藪 利 雄 (66)
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 分団長	す 菅 波 宏 之 (70)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	な 中 林 慎 太郎 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 分団長	まつ 松 本 猛 (78)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	な 中 村 正 弘 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 幸手市消防団 団長	や 山 口 林 三 郎 (71)	瑞 双	東 京 都	元 赤羽消防団 団長	う 内 山 昇 昇 (74)
瑞 小	千 葉 県	元 千葉市 消防正監	さい 齋 藤 照 (70)	瑞 双	東 京 都	元 足立消防団 団長	お 太 田 義 久 (72)
瑞 小	千 葉 県	元 船橋市 消防正監	さ 佐 久 間 隆 (70)	瑞 双	東 京 都	元 小岩消防団 団長	お 大 場 兼 一 (70)
瑞 双	千 葉 県	元 我孫子市消防団 団長	い 飯 田 和 行 (78)	瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	な 谷 本 三 郎 (70)
瑞 単	千 葉 県	元 千葉市消防団 副団長	い 石 橋 岩 雄 (73)	瑞 双	東 京 都	元 矢口消防団 団長	わか 若 林 登 (81)

瑞 単	東 京 都	元 本田消防団 副団長	い 石 井 康 之 (76)	瑞 単	東 京 都	元 練馬消防団 副団長	しの 篠 久 郎 (77)
瑞 単	東 京 都	元 品川消防団 副団長	いの 猪 爪 勇 雄 (74)	瑞 単	東 京 都	元 杉並消防団 副団長	た 田 中 昭 一 (71)
瑞 単	東 京 都	元 芝消防団 分団長	い 岩 野 清 美 (77)	瑞 単	東 京 都	元 尾久消防団 副団長	た 棚 橋 幸 男 (74)
瑞 単	東 京 都	元 深川消防団 副団長	お 大 森 稔 (72)	瑞 単	東 京 都	元 西新井消防団 分団長	な 中 田 春 由 (81)
瑞 単	東 京 都	元 玉川消防団 分団長	きの 木 下 徳 三 (74)	瑞 単	東 京 都	元 臨港消防団 分団長	にし 西 田 孝 治 (77)
瑞 単	東 京 都	元 日本堤消防団 分団長	くれ 樽 沼 己 年 (72)	瑞 単	東 京 都	元 田園調布消防団 団長	ひ 樋 口 勝 久 (73)
瑞 単	東 京 都	元 渋谷消防団 副団長	こ 小 杉 博 (73)	瑞 単	東 京 都	元 狛江市消防団 団長	ま 間 鍋 伸 一 (70)
瑞 単	東 京 都	元 王子消防団 副団長	こ 小 山 郁 雄 (73)	瑞 単	東 京 都	元 麴町消防団 分団長	みや 宮 克 紀 (73)
瑞 単	東 京 都	元 新宿消防団 分団長	こ 小 山 隆 (78)	瑞 単	東 京 都	元 志村消防団 副団長	わた 渡 邊 昌 彦 (75)
瑞 単	東 京 都	元 四谷消防団 分団長	さ の 坂 本 彬 (73)	瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	え 在 原 勝 (70)
瑞 単	東 京 都	元 蒲田消防団 分団長	さ 佐 久 間 孝 一 (79)	瑞 小	神 奈 川 県	元 鎌倉市 消防正監	や 山 崎 博 夫 (70)
瑞 単	東 京 都	元 高輪消防団 分団長	さ 佐 藤 和 央 (72)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	い 伊 勢 川 勉 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	神奈川県	元 藤沢市 消防正監	小野寺 正 一 (70)	瑞 単	神奈川県	元 横浜市都筑消防団 副団長	中山 伊勢造 (79)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市南消防団 副団長	安 藤 政 彦 (78)	瑞 単	神奈川県	元 横浜市寿消防団 分団長	南 信一郎 (79)
瑞 単	神奈川県	元 藤野町消防団 団長	岩 崎 三 雄 (70)	瑞 単	神奈川県	元 横須賀市消防団 分団長	安 間 政 之 (73)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市緑消防団 分団長	岩 間 仲 博 (75)	瑞 単	神奈川県	元 横浜市西消防団 分団長	山 田 保 (78)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市戸塚消防団 副団長	岡 本 忠 男 (75)	瑞 双	新潟県	元 南魚沼市消防団 団長	遠 藤 文 夫 (73)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市港南消防団 副団長	笠 原 久 繼 (74)	瑞 双	新潟県	元 安田町消防団 団長	佐 藤 明 男 (81)
瑞 単	神奈川県	元 箱根町消防団 副団長	勝 俣 孝 孝 (73)	瑞 双	新潟県	元 刈羽村消防団 団長	三 五 弘 毅 (72)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市保土ヶ谷消防団 分団長	金 子 美知夫 (84)	瑞 双	新潟県	元 上越地域消防事務 組合 消防正監	間 島 英 夫 (71)
瑞 単	神奈川県	元 藤沢市消防団 副団長	小 嶋 勇 勇 (73)	瑞 単	新潟県	元 魚沼市消防団 団長	浅 井 稔 (67)
瑞 単	神奈川県	元 小田原市消防団 団長	三 邊 和 夫 (70)	瑞 単	新潟県	元 上越市消防団 副団長	石 崎 博 己 (66)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市金沢消防団 副団長	鈴 木 義 雄 (78)	瑞 単	新潟県	元 出雲崎町消防団 団長	小 田 正 勝 (68)
瑞 単	神奈川県	元 横浜市磯子消防団 副団長	武 野 松 夫 (77)	瑞 単	新潟県	元 西山町消防団 分団長	菊 入 信 (76)

瑞 単	新潟県	元 長岡市消防団 副団長	小 松 功 (70)	瑞 小	富山県	元 富山市 消防正監	山 本 秀 光 (70)
瑞 単	新潟県	元 阿賀町消防団 副団長	清 田 喜 好 (67)	瑞 双	富山県	元 南砺市消防団 副団長	羽 馬 信 夫 (67)
瑞 単	新潟県	元 白根市消防団 副団長	高 橋 一 男 (79)	瑞 単	富山県	元 富山市消防団 副団長	小 川 重 勝 (70)
瑞 単	新潟県	元 新津市消防団 副団長	田 辺 茂 行 (72)	瑞 単	富山県	元 富山市消防団 副団長	奥 村 博 (69)
瑞 単	新潟県	元 相川町消防団 分団長	長 登 正 義 (73)	瑞 単	富山県	元 小矢部市消防団 分団長	佐 野 幸 二 (82)
瑞 単	新潟県	元 村松町消防団 分団長	羽下 金之壽計 (73)	瑞 単	富山県	元 水見市消防団 分団長	高 口 秀 一 (80)
瑞 単	新潟県	元 新発田市消防団 団長	平 野 眞 市 (65)	瑞 単	富山県	元 黒部市消防団 分団長	高 森 留 勇 (81)
瑞 単	新潟県	元 長岡市消防団 分団長	細 貝 久 雄 (79)	瑞 単	富山県	元 上市町消防団 分団長	富 樫 正 義 (86)
瑞 単	新潟県	元 越路町消防団 分団長	山 崎 完 三 (78)	瑞 単	富山県	元 入善町消防団 分団長	花 田 昭 治 (85)
瑞 単	新潟県	元 湯沢町消防団 副団長	山 本 利 夫 (69)	瑞 単	富山県	元 高岡市南部消防団 分団長	三 屋 利 明 (75)
瑞 単	新潟県	元 新潟市消防団 副団長	渡 邊 孝 孝 (66)	瑞 単	富山県	元 高岡市消防団 分団長	宮 本 敏 明 (77)
瑞 単	新潟県	元 青海町消防団 分団長	渡 邊 武 彦 (75)	瑞 単	富山県	元 魚津市消防団 分団長	山 本 正 治 (80)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	石 川 県	元 七尾鹿島広域圏事務組合第2消防団 団長	池 田 つよし 毅 (71)	瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合今立 消防団 分団長	山 田 しげ 重 喜 (74)
瑞 単	石 川 県	元 輪島市消防団 分団長	下 孫 まさご 一 (79)	瑞 単	山 梨 県	元 道志村消防団 団長	白 井 い 勝 光 (64)
瑞 単	石 川 県	元 内浦町消防団 副団長	諏 訪 富士朗 (74)	瑞 単	山 梨 県	元 甲府市消防団 分団長	千 野 ひさ 久 男 (76)
瑞 単	石 川 県	元 七尾鹿島広域圏事務組合第1消防団 副団長	瀬 川 かつ 強 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 早川町消防団 副団長	深 沢 光 男 (64)
瑞 単	石 川 県	元 高松町消防団 副団長	竹 中 しゅう 紘 (71)	瑞 単	山 梨 県	元 上野原市消防団 副団長	古 家 勝 夫 (64)
瑞 単	石 川 県	元 小松市消防団 分団長	鳥 崎 祐 弘 (74)	瑞 単	長 野 県	元 日義村消防団 団長	神 村 清 (60)
瑞 単	石 川 県	元 金沢市第二消防団 分団長	畑 中 たけ 雄 (75)	瑞 単	長 野 県	元 長野県栄村消防団 団長	島 田 福 一 (78)
瑞 小	福 井 県	元 福井地区消防組合 消防正監	村 中 厚 (70)	瑞 双	岐 阜 県	元 飛騨市消防団 副団長	板 橋 貴代司 (64)
瑞 単	福 井 県	元 永平寺町消防団 副分団長	青 木 まさ 守 (76)	瑞 双	岐 阜 県	元 北方町消防団 団長	鷲 見 哲 夫 (70)
瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合今庄 消防団 副団長	松 田 武 海 (70)	瑞 双	岐 阜 県	元 飛騨市消防団 副団長	水 川 治 一 (64)
瑞 単	福 井 県	元 敦賀美方消防組合 敦賀消防団 副団長	村 中 たけ 義 (71)	瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	新 谷 孝 一 (64)
瑞 単	福 井 県	元 福井市消防団 分団長	室 善 他家 (69)	瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市中消防団 副団長	重 松 盛之助 (66)

瑞 単	岐 阜 県	元 北方町消防団 団長	常 川 幸 一 (65)	瑞 小	愛 知 県	元 知多中部広域事務 組合 消防正監	伊 藤 與 朗 (70)
瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市南消防団 副団長	長 屋 義 彦 (70)	瑞 小	愛 知 県	元 豊橋市 消防正監	前 田 勝 利 (70)
瑞 単	岐 阜 県	元 池田町消防団 団長	野 村 ゆたか 豊 (67)	瑞 小	愛 知 県	元 岡崎市 消防正監	山 本 たけし 武 (70)
瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	藤 田 まさひ 正比古 (65)	瑞 双	愛 知 県	元 名古屋市西福田消 防団 団長	安 井 眞 巳 (70)
瑞 双	静 岡 県	元 三島市消防団 団長	松 川 まさ 益 敏 (65)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市八幡消防 団 団長	大 島 たつ 哉 (75)
瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 団長	植 松 まさ 義 己 (69)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市伊勢消防 団 団長	大 原 のり 紀 男 (72)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	長 田 喜 一 (65)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市星崎消防 団 団長	河 合 い ち 郁 雄 (75)
瑞 単	静 岡 県	元 小山町消防団 副団長	勝 又 正 良 (64)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市城西消防 団 団長	神 田 充 教 (72)
瑞 単	静 岡 県	元 焼津市消防団 副団長	堀 江 あきら 明 (67)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市日比津消 防団 団長	澤 木 ひろみ 豊 (74)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	望 月 おさむ 治 (67)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市本郷消防 団 団長	高 柳 まさ 正 勝 (70)
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 団長	山 本 のぶ 英 (69)	瑞 単	愛 知 県	元 岡崎市山中消防団 団長	永 田 研 一 (66)
瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防司監	石 原 あき 秋 春 (72)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市大坪消防 団 団長	山 田 澄 夫 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	三 重 県	元 津市安濃消防団 団長	川 本 宗 和 (73)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	生 谷 貴之助 (71)
瑞 双	三 重 県	元 伊勢市消防団 団長	佐 藤 幸 弘 (74)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	杜 若 安 三 (83)
瑞 双	三 重 県	元 津市久居消防団 団長	田 中 征 宏 (69)	瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 分団長	加 藤 清三郎 (75)
瑞 単	三 重 県	元 熊野市消防団 分団長	榎 本 泰 生 (76)	瑞 単	京 都 府	元 宇治市消防団 団長	木 村 登志雄 (64)
瑞 単	三 重 県	元 朝日町消防団 団長	後 藤 正 憲 (64)	瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 副団長	澤 村 博 之 (77)
瑞 単	三 重 県	元 津市消防団津方面 副団長	坂 野 弘 弘 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 分団長	瀧 本 嶺 生 (76)
瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 分団長	増 田 喜 則 (75)	瑞 単	京 都 府	元 京都市山科消防団 分団長	竹 本 武一郎 (76)
瑞 小	滋 賀 県	元 東近江行政組合 消防正監	木 村 勝 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市東山消防団 分団長	田 中 巖 (79)
瑞 双	滋 賀 県	元 湖南消防組合 消防正監	井 口 三千三 (79)	瑞 単	京 都 府	元 三和町消防団 団長	水 谷 俊 一 (63)
瑞 単	滋 賀 県	元 彦根市消防団 副団長	大 橋 政次郎 (64)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	山 岸 進 一 (75)
瑞 単	滋 賀 県	元 長浜市消防団 副団長	川 崎 伊右エ門 (64)	瑞 単	京 都 府	元 京都市上京消防団 分団長	山 田 和 男 (75)
瑞 単	滋 賀 県	元 湖北町消防団 団長	杉 田 信 男 (64)	瑞 小	大 阪 府	元 門真市消防団 団長	秋 田 治 夫 (76)

瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	阪 口 康 夫 (70)	瑞 単	大 阪 府	元 富田林市消防団 副分団長	脇 田 行 夫 (68)
瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	橋 本 多加男 (70)	瑞 小	兵 庫 県	元 神戸市 消防正監	田 辺 征三郎 (70)
瑞 小	大 阪 府	元 柏原羽曳野藤井寺 消防組合 消防正監	松 尾 満 (70)	瑞 小	兵 庫 県	元 姫路市 消防正監	橋 本 信 昭 (70)
瑞 双	大 阪 府	元 茨木市消防団 団長	小 林 靖 彦 (71)	瑞 小	兵 庫 県	元 明石市 消防正監	水 田 宣 雄 (70)
瑞 単	大 阪 府	元 豊能町消防団 分団長	飯 村 勉 (65)	瑞 双	兵 庫 県	元 神戸市 消防正監	魚 住 好 司 (73)
瑞 単	大 阪 府	元 柏原市消防団 分団長	上 田 義 信 (65)	瑞 双	兵 庫 県	元 南光町消防団 団長	塩 崎 幸 夫 (70)
瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 分団長	小 林 弘 氏 (73)	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	大 津 宏 二 (70)
瑞 単	大 阪 府	元 松原市消防団 副団長	芝 池 美紀男 (73)	瑞 単	兵 庫 県	元 明石市消防団 分団長	大 西 良 廣 (64)
瑞 単	大 阪 府	元 泉南市消防団 副団長	城 森 茂 樹 (63)	瑞 単	兵 庫 県	元 赤穂市消防団 副団長	大 橋 博 文 (66)
瑞 単	大 阪 府	元 八尾市消防団 副団長	角 野 秀 幸 (64)	瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市竹野消防団 副団長	垣 田 義 和 (64)
瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 副分団長	野 中 博 (76)	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	梶 野 節 二 (64)
瑞 単	大 阪 府	元 堺市美原消防団 分団長	平 井 守 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	齋 藤 一 成 (75)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市北消防団 副団長	しん かに よし へい 治 (67)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	みや へん よし へい 治 (68)
瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 副団長	たに ちとせ まさお 男 (64)	瑞 双	奈 良 県	元 桜井市消防団 団長	みや けい せき 直 (73)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市網干消防団 団長	なか ちか せい 成 (74)	瑞 双	奈 良 県	元 奈良市消防団 団長	くろ ぶん へい 治 (77)
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	なか つかさ 直 一 (77)	瑞 単	奈 良 県	元 大塔村消防団 分団長	にし へい へい 治 (84)
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	にし かわ 竹 夫 (78)	瑞 単	奈 良 県	元 山辺広域行政事務 組合天理消防団 副団長	みや けい せき 直 (65)
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	ふく せき 有 介 (71)	瑞 単	奈 良 県	元 山辺広域行政事務 組合川西消防団 団長	ひろ せき 修 (74)
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	ほそ かに 南海男 (76)	瑞 単	奈 良 県	元 橿原市消防団 副団長	よし へん 忠 (70)
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市西消防団 副団長	まつ けい 肇 (68)	瑞 単	奈 良 県	元 十津川村消防団 分団長	もり けん 孝 弘 (79)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路西消防 分団長	まつ ちとせ 克 己 (81)	瑞 単	奈 良 県	元 川上村消防団 分団長	よし だ 勝 美 (73)
瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 副団長	まつ ちとせ 慶 治 (66)	瑞 双	和 歌 山 県	元 岩出市消防団 団長	あき 村 孝 一 (79)
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市日高消防団 副団長	みづ ぐち 和 美 (64)	瑞 単	和 歌 山 県	元 印南町消防団 団長	あら 新 井 弘 一 (69)
瑞 単	兵 庫 県	元 たつの市消防団 分団長	みつ 満 田 邦 弘 (66)	瑞 単	和 歌 山 県	元 海南市消防団 分団長	い 井 道 義 夫 (70)

瑞 単	和 歌 山 県	元 上富田町消防団 副団長	ふの もと 芳 男 (70)	瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 副団長	やま にし 敦 久 (75)
瑞 単	和 歌 山 県	元 田辺市消防団 副団長	おお 橋 貞 介 (65)	瑞 双	鳥 根 県	元 都万村消防団 団長	わ だ 正 夫 (70)
瑞 単	和 歌 山 県	元 かつらぎ町消防団 団長	き 木 村 全 治 (64)	瑞 単	鳥 根 県	元 大田市消防団 分団長	いし 石 原 矩 (76)
瑞 単	和 歌 山 県	元 日高川町美山消防 団長	こ げやし 正 人 (64)	瑞 単	鳥 根 県	元 雲南市消防団 副団長	い 井 谷 憲 治 (66)
瑞 単	和 歌 山 県	元 串本町消防団 副団長	たちばな 橋 由規男 (75)	瑞 単	鳥 根 県	元 浜田市消防団 分団長	おお 大 埜 貞 雄 (77)
瑞 単	和 歌 山 県	元 太地町消防団 分団長	まえ だ 武 (80)	瑞 単	鳥 根 県	元 松江市消防団 分団長	さか 坂 本 悦 朗 (77)
瑞 単	和 歌 山 県	元 湯浅町消防団 副団長	みつ 三ツ橋 渉 (71)	瑞 単	鳥 根 県	元 安来市消防団 分団長	なが 永 井 仁 志 (70)
瑞 双	鳥 取 県	元 北栄町消防団 団長	お 小 椋 一 四 (70)	瑞 単	鳥 根 県	元 益田市消防団 副団長	お 榎 田 浩 (69)
瑞 双	鳥 取 県	元 鳥取市消防団 団長	にし 西 村 育 雄 (83)	瑞 単	鳥 根 県	元 江津市消防団 分団長	やま 山 崎 誠 (80)
瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 副団長	た 田 渕 忠 昭 (65)	瑞 単	鳥 根 県	元 浜田市消防団 分団長	やま 山 本 英 明 (68)
瑞 単	鳥 取 県	元 鳥取市消防団 分団長	た 田 村 利 男 (70)	瑞 小	岡 山 県	元 岡山市 消防正監	あき 荒 島 淳 宗 (70)
瑞 単	鳥 取 県	元 八頭町消防団 団長	はやし 林 憲 三 (66)	瑞 双	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	かわ 川 上 定 男 (66)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	岡 山 県	元 岡山市消防団 団長	伏見義彦 (71)	瑞 単	岡 山 県	元 赤磐市消防団 副団長	山田節男 (65)
瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	相賀一夫 (65)	瑞 小	広 島 県	元 呉市 消防正監	大森健三 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 副団長	小川 潔 (65)	瑞 小	広 島 県	元 福山地区消防組合 消防正監	竹縄伸治 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	熊澤征将 (69)	瑞 双	広 島 県	元 甲田町消防団 副団長	沖田里吏 (77)
瑞 単	岡 山 県	元 瀬戸内市消防団 団長	児島直臣 (66)	瑞 双	広 島 県	元 呉市消防団 団長	新谷勝利 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	近藤安正 (66)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	有田 紘 昭 (72)
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	杉山 忠 (71)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	今田 年 行 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 勝田町消防団 団長	長岡 寛 明 (65)	瑞 単	広 島 県	元 広島市東消防団 分団長	岩本 鐵 男 (83)
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	中嶋 治 喜 (65)	瑞 単	広 島 県	元 広島市東消防団 副団長	尾崎 稔 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 美甘村消防団 副団長	半田 明 徳 (66)	瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 分団長	角本 勝 行 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 赤磐市消防団 分団長	松田 優 (65)	瑞 単	広 島 県	元 庄原市消防団 副団長	作田 高 義 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 笠岡市消防団 分団長	山川 廣 藏 (69)	瑞 単	広 島 県	元 能美町消防団 副団長	空本 和 義 (71)

瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 副団長	高尾 昭 臣 (70)	瑞 双	山 口 県	元 下関市消防団 団長	植田 喜 好 (73)
瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 副団長	竹重 和 美 (70)	瑞 双	山 口 県	元 長門市消防団 団長	小林 清 (70)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	西岡 五十昭 (71)	瑞 単	山 口 県	元 小野田市消防団 分団長	石井 他 人 (77)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐南消防 団 分団長	平岡 稲 實 (74)	瑞 単	山 口 県	元 周防大島町消防団 分団長	大谷 壽 雄 (83)
瑞 単	広 島 県	元 吉舎町消防団 副団長	福場 健 二 (70)	瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 副団長	大宮 靖 彦 (70)
瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 分団長	福本 聖 (71)	瑞 単	山 口 県	元 小郡町消防団 団長	岡村 基一郎 (71)
瑞 単	広 島 県	元 坂町消防団 分団長	前川 航一郎 (72)	瑞 単	山 口 県	元 大島町消防団 分団長	岡本 正 (82)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 団 部長	三吉 巧 (86)	瑞 単	山 口 県	元 光市消防団 分団長	葛原 孝 良 (69)
瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	森元 充 典 (72)	瑞 単	山 口 県	元 川上村消防団 分団長	神崎 弘 (76)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 団長	保道 勝 (70)	瑞 単	山 口 県	元 下関市消防団 副団長	佐々木 磯 址 (70)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 副団長	吉岡 忠 (74)	瑞 単	山 口 県	元 阿武町消防団 副団長	杉 利 行 (71)
瑞 小	山 口 県	元 下関地区広域行政 事務組合 消防正監	藤川 洋 (70)	瑞 単	山 口 県	元 田布施町消防団 分団長	田中 信 雄 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 口 県	元 阿知須町消防団 分団長	た 田 邊 保 雄 (85)	瑞 単	徳 島 県	元 那賀町木頭消防団 団長	名 藏 忠 二 (64)
瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団宇部 消防団 副団長	と 土 井 義 樹 (72)	瑞 単	徳 島 県	元 牟岐町消防団 分団長	は 原 拓 平 (78)
瑞 単	山 口 県	元 美東町消防団 分団長	な が 峯 章 一 郎 (72)	瑞 単	徳 島 県	元 牟岐町消防団 分団長	は 原 田 宏 (79)
瑞 単	山 口 県	元 周南市消防団 副団長	な か 村 忠 行 (70)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 副団長	ふ じ 福 住 敏 一 (65)
瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団宇部 消防団 分団長	は し 林 武 男 (76)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 分団長	は 田 勝 義 (65)
瑞 単	山 口 県	元 美祢市消防団 分団長	ふ じ 福 永 義 祐 (77)	瑞 単	徳 島 県	元 鳴門市消防団 副団長	もり 森 健 次 (66)
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	ふ じ 藤 木 増 男 (79)	瑞 双	香 川 県	元 宇多津町消防団 団長	た 谷 口 和 久 (70)
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	や ま 山 根 満 明 (76)	瑞 単	香 川 県	元 山本町消防団 副団長	い 岩 倉 明 芳 (79)
瑞 単	山 口 県	元 豊北町消防団 分団長	よ し 吉 村 和 夫 (72)	瑞 単	香 川 県	元 善通寺市消防団 分団長	か 川 田 正 夫 (82)
瑞 双	徳 島 県	元 美馬西部消防組合 消防団 団長	お お 大 久 保 憲 二 (66)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	か 川 西 邦 夫 (65)
瑞 双	徳 島 県	元 鳴門市消防団 団長	た か 高 橋 輝 典 (72)	瑞 単	香 川 県	元 丸亀市消防団 副団長	し ら 鹿 戸 隆 司 (77)
瑞 双	徳 島 県	元 吉野川市消防団 団長	や ま 山 下 智 (77)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	す 末 澤 邦 弘 (68)

瑞 単	香 川 県	元 東かがわ市消防団 副団長	は し 橋 本 正 富 (73)	瑞 単	愛 媛 県	元 大洲市消防団 分団長	き 菊 地 實 (82)
瑞 単	香 川 県	元 高瀬町消防団 副分団長	は 原 田 崇 (83)	瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 分団長	き 木 原 整 (78)
瑞 単	香 川 県	元 寒川町消防団 分団長	ひろ 廣 瀬 博 之 (78)	瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	た か 高 井 平 八 郎 (71)
瑞 単	香 川 県	元 琴南町消防団 副団長	ふ じ 藤 原 勉 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 大洲市消防団 副団長	た け 武 田 重 光 (66)
瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 副団長	ふる 古 川 忠 一 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 分団長	ふ じ 藤 田 實 (66)
瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 副団長	や ま 山 本 守 夫 (67)	瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	は 本 田 喜 彦 (72)
瑞 単	香 川 県	元 三豊市消防団 副団長	よ こ 横 関 佐 太 郎 (73)	瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	み 水 沼 茂 (81)
瑞 単	愛 媛 県	元 城川町消防団 団長	あ 浅 野 秀 三 郎 (69)	瑞 双	高 知 県	元 佐川町消防団 団長	きた 北 添 光 明 (73)
瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 副団長	い 伊 藤 秀 紀 (70)	瑞 双	高 知 県	元 中芸行政組合田野 町消防団 団長	な か 中 島 良 久 (83)
瑞 単	愛 媛 県	元 伊予三島市消防団 分団長	お お 大 西 静 晴 (79)	瑞 双	高 知 県	元 高輪消防組合須崎 消防団 団長	ふ じ 藤 田 昌 秀 (72)
瑞 単	愛 媛 県	元 玉川町消防団 分団長	お 越 智 勝 (77)	瑞 単	高 知 県	元 高輪消防組合四万 十消防団 副団長	いち 市 川 久 氏 (65)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	かい 戒 能 博 昭 (80)	瑞 単	高 知 県	元 池川町消防団 副団長	い の 井 上 定 光 (77)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	高 知 県	元 西土佐村消防団 分団長	岡 崎 武 雄 (84)	瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	亀 安 征 治 (74)
瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	川 崎 只 喜 (83)	瑞 単	福 岡 県	元 飯塚市消防団 分団長	粟 野 明 (67)
瑞 単	高 知 県	元 中村市消防団 副分団長	土 居 一 行 (78)	瑞 単	福 岡 県	元 久留米市消防団 分団長	酒 見 克 宏 (72)
瑞 単	高 知 県	元 土佐市消防団 副団長	宮 本 一 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	柴 田 豊 (78)
瑞 小	福 岡 県	元 福岡市 消防正監	有 田 大 和 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 団長	武 市 昭 (75)
瑞 双	福 岡 県	元 久留米市消防団 団長	秋 山 恵 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 川崎町消防団 副団長	谷 口 道 敏 (74)
瑞 双	福 岡 県	元 遠賀町消防団 団長	池 田 紀 樹 (72)	瑞 単	福 岡 県	元 筑後市消防団 副団長	辻 義 満 (64)
瑞 双	福 岡 県	元 福岡市東消防団 団長	西 尾 正 義 (66)	瑞 単	福 岡 県	元 嘉穂町消防団 分団長	縄 田 勲 (76)
瑞 双	福 岡 県	元 福岡市西消防団 団長	三 島 新 利 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 分団長	樋 口 正 博 (73)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市若松消防団 分団長	浅 山 忠 男 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市戸畑消防団 分団長	平 岡 晴 彦 (77)
瑞 単	福 岡 県	元 宗像市消防団 団長	荒 木 洋 一 (65)	瑞 単	福 岡 県	元 福智町消防団 副団長	藤 本 利 彦 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 赤池町消防団 副団長	浦 田 末 春 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市南消防団 分団長	的 野 泰 司 (69)

瑞 単	福 岡 県	元 桂川町消防団 分団長	安河内 幸 弘 (73)	瑞 単	長 崎 県	元 東彼杵町消防団 団長	岡 田 金 助 (65)
瑞 双	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 団長	野 中 勉 (84)	瑞 単	長 崎 県	元 鷹島町消防団 分団長	金井田 弘 (82)
瑞 単	佐 賀 県	元 有田町西有田消防団 副団長	岩 永 久 司 (67)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	久 原 武 (75)
瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 分団長	川 島 伸 夫 (65)	瑞 単	長 崎 県	元 峰町消防団 団長	権 藤 種 夫 (72)
瑞 単	佐 賀 県	元 小城市消防団 副団長	永 石 九 義 (67)	瑞 単	長 崎 県	元 五島市消防団 副団長	庄 司 靖 伸 (70)
瑞 単	佐 賀 県	元 三根町消防団 副団長	中 島 秀 利 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副分団長	鈴 田 國 雄 (79)
瑞 単	佐 賀 県	元 唐津市肥前消防団 団長	中 山 佳 之 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 川棚町消防団 団長	塚 本 一 二 (67)
瑞 単	佐 賀 県	元 北方町消防団 副団長	宮 原 正 剛 (67)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副分団長	橋 本 輝 雄 (78)
瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 副団長	横 尾 芳 樹 (79)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	廣 田 守 (77)
瑞 双	長 崎 県	元 西海市消防団 団長	井 田 邦 彦 (80)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	山 井 朝 松 (77)
瑞 双	長 崎 県	元 壱岐市消防団 副団長	斉 藤 秀 和 (69)	瑞 単	長 崎 県	元 新魚目町消防団 副分団長	山 下 巍 (75)
瑞 単	長 崎 県	元 南有馬町消防団 団長	安 藤 秀 樹 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 鹿町町消防団 団長	湯 村 貢 (66)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	長 崎 県	元 福島町消防団 団長	吉 田 つかさ (70)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副団長	吉 本 光 康 (67)
瑞 小	熊 本 県	元 熊本市 消防正監	高 田 勝利 (70)	瑞 双	大 分 県	元 国東市消防団 団長	池 田 一 彌 (70)
瑞 双	熊 本 県	元 波野村消防団 団長	佐 藤 義 勝 (70)	瑞 双	大 分 県	元 臼杵市連合消防団 団長	佐 々 木 武 則 (73)
瑞 単	熊 本 県	元 山鹿市消防団 団長	池 田 彰 一 (64)	瑞 単	大 分 県	元 豊後高田市消防団 分団長	石 元 慶 彦 (72)
瑞 単	熊 本 県	元 鏡町消防団 団長	黒 田 清 志 (72)	瑞 単	大 分 県	元 院内町消防団 副団長	宇 都 次 男 (77)
瑞 単	熊 本 県	元 荅北町消防団 団長	小 松 義 雄 (64)	瑞 単	大 分 県	元 中津市消防団 副団長	梅 木 治 三郎 (69)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	戸 泉 博 規 (71)	瑞 単	大 分 県	元 竹田市消防団 団長	神 田 定 義 (66)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副団長	鳥 本 孝 (67)	瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 団長	佐 藤 麻 雄 (74)
瑞 単	熊 本 県	元 あさぎり町消防団 副団長	野々脇 正 巳 (64)	瑞 単	大 分 県	元 玖珠町消防団 団長	繁 田 政 安 (66)
瑞 単	熊 本 県	元 御船町消防団 団長	配 藤 栄 次 (64)	瑞 単	大 分 県	元 豊後大野市緒方町 消防団 団長	下 田 健 進 (67)
瑞 単	熊 本 県	元 荒尾市消防団 副団長	稗 田 美津男 (64)	瑞 単	大 分 県	元 蒲江町消防団 団長	橋 本 守 守 (77)
瑞 単	熊 本 県	元 鹿央町消防団 団長	平 山 廣 康 (64)	瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	平 松 剛 (79)

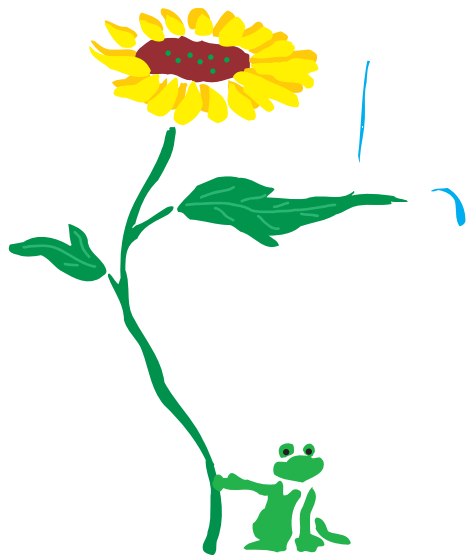
瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 分団長	徳 田 勝 (66)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 肝付町消防団 分団長	戸 柱 孜 (81)
瑞 単	宮 崎 県	元 高千穂町消防団 副団長	宮 尾 保 徳 (63)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 始良町消防団 分団長	面 三 千 穂 (86)
瑞 単	宮 崎 県	元 南郷町消防団 副団長	山 倉 定 雄 (64)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 喜人町消防団 分団長	前 畑 勇 作 (79)
瑞 単	宮 崎 県	元 串間市消防団 分団長	渡 部 美 明 (65)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 中種子町消防団 団長	本 村 修 (67)
瑞 小	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 団長	豊 永 義 夫 (82)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 穎娃町消防団 団長	吉 村 忍 (71)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 和泊町消防団 団長	川 間 元 生 (80)	瑞 単	沖 縄 県	元 沖縄市消防団 分団長	新 垣 萬 榮 (71)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 伊佐市消防団 副団長	塩 屋 広 志 (71)	旭 双	埼 玉 県	現 (公社)埼玉県危険 物安全協会連合会 会長	清 宮 安 雄 (77)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 川内地区消防組合 川内市消防団 副団長	有 村 一 男 (73)	旭 双	兵 庫 県	現 (一社)兵庫県消防 設備保守協会 会長	高 井 史 郎 (77)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副団長	仮 屋 昭 義 (73)	旭 双	千 葉 県	現 千葉県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	竹 内 久 子 (70)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 副団長	小 園 和 則 (71)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鶴田町消防団 分団長	しもむらこ 下 大 迫 市 雄 (75)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 大崎町消防団 副団長	しん 新 鷲 光 昭 (72)				

平成26年春の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
藍 綬	北 海 道	現 斜里地区消防組合 小清水消防団 団長	奥 村 寛 (64)	藍 綬	福 島 県	現 南会津町消防団 副団長	猪 股 洋 (63)
藍 綬	北 海 道	現 芦別市消防団 分団長	小 野 英 開 (62)	藍 綬	福 島 県	現 相馬市消防団 分団長	鎌 田 重 昭 (60)
藍 綬	青 森 県	現 弘前市消防団 副団長	赤 石 力 (62)	藍 綬	茨 城 県	現 桜川市消防団 団長	皆 川 光 吉 (61)
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 副団長	佐 藤 昭 仁 (57)	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市塩原消防団 副団長	君 島 正 三 (61)
藍 綬	青 森 県	現 三戸町消防団 分団長	松 山 茂 (60)	藍 綬	群 馬 県	現 大泉町消防団 副団長	鈴 木 貞 夫 (63)
藍 綬	青 森 県	現 大間町消防団 分団長	和 田 健 一 (60)	藍 綬	群 馬 県	現 高崎市消防団 副団長	高 橋 慎 一 郎 (68)
藍 綬	秋 田 県	現 八郎潟町消防団 団長	齊 藤 和 雄 (65)	藍 綬	群 馬 県	元 前橋市消防団 分団長	山 田 吉 久 (61)
藍 綬	秋 田 県	現 八郎潟町消防団 副団長	畠 山 敏 夫 (65)	藍 綬	埼 玉 県	現 横瀬町消防団 団長	若 林 俊 明 (50)
藍 綬	山 形 県	現 酒田市消防団 団長	熊 谷 文 昭 (60)	紅 綬	千 葉 県	人命救助者	山 崎 貴 之 (33)
藍 綬	山 形 県	現 村山市消防団 団長	西 塚 茂 男 (64)	藍 綬	千 葉 県	現 柏市消防団 団長	小 田 山 博 史 (57)
藍 綬	福 島 県	現 猪苗代町消防団 団長	五十嵐 正 義 (59)	藍 綬	千 葉 県	現 東金市消防団 団長	布 留 川 博 保 (62)
藍 綬	福 島 県	現 白河市消防団 副団長	石 山 良 三 (61)	藍 綬	東 京 都	現 矢口消防団 分団長	雨 宮 萬 藏 (68)
藍 綬	東 京 都	現 八王子市消防団 副団長	井 上 潔 (63)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市港北消防団 分団長	小 泉 正 (68)
藍 綬	東 京 都	現 豊島消防団 副団長	大 塚 勝 男 (75)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	菱 沼 征 治 (71)
藍 綬	東 京 都	現 赤坂消防団 副団長	小 山 直 行 (65)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市中原消防団 副団長	布 施 行 雄 (63)
藍 綬	東 京 都	現 荻窪消防団 副団長	坂 井 雄 治 (65)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市緑消防団 分団長	和 内 健 一 (67)
藍 綬	東 京 都	現 小平市消防団 団長	鈴木 洋 一 (54)	藍 綬	石 川 県	現 中能登町消防団 団長	亀 井 正 秋 (64)
藍 綬	東 京 都	現 渋谷消防団 副団長	五月女 忠 雄 (68)	藍 綬	石 川 県	現 加賀市消防団 副団長	村 谷 勇 一 (65)
藍 綬	東 京 都	現 西新井消防団 副団長	中 田 文 雄 (69)	藍 綬	福 井 県	現 南越消防組合越前市消防団 副団長	竹 内 一 夫 (65)
藍 綬	東 京 都	現 麻布消防団 副団長	長谷川 敬 一 (65)	藍 綬	岐 阜 県	現 瑞穂市消防団 団長	青 木 哲 朗 (61)
藍 綬	東 京 都	現 尾久消防団 副団長	山 口 大 幸 (61)	藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	大 宮 壽 (60)
藍 綬	東 京 都	現 本田消防団 副団長	山 田 征 男 (70)	藍 綬	岐 阜 県	現 美濃市消防団 団長	河 合 有 二 (62)
藍 綬	東 京 都	現 足立消防団 副団長	横 溝 正 雄 (65)	藍 綬	岐 阜 県	現 大垣市消防団 副団長	桐 山 玉 造 (62)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市神奈川消防団 分団長	飯 田 崇 久 (70)	藍 綬	岐 阜 県	現 掛斐川町消防団 副団長	森 本 康 之 (60)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市中小田井 消防団 団長	つじ 正 弘 (66)	藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 副団長	羽 田 俊 夫 (63)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市正保消防 団 団長	丸 井 利 夫 (68)	藍 綬	大 阪 府	現 河南町消防団 分団長	松 牧 泰 孝 (68)
藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 分団長	と 田 中 隆 一 (63)	藍 綬	奈 良 県	元 上牧町消防団 分団長	たけ 竹 島 成 直 (63)
藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	やま 山 野 正 隆 (71)	藍 綬	和 歌 山 県	現 橋本市消防団 副団長	まこと 眞 田 和 央 (64)
藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	はら 原 田 八 壽 夫 (63)	藍 綬	和 歌 山 県	現 和歌山市消防団 分団長	やま 山 田 啓 造 (64)
藍 綬	滋 賀 県	現 守山市消防団 副団長	ひら 平 井 壽 一 (62)	藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 分団長	の 野 口 晴 久 (64)
藍 綬	京 都 府	現 京田辺市消防団 団長	あか 岡 嶋 一 晃 (58)	藍 綬	鳥 根 県	現 松江市消防団 団長	まつ 松 浦 嘉 昭 (72)
藍 綬	京 都 府	現 舞鶴市南消防団 団長	こ 小 山 勝 巳 (59)	藍 綬	岡 山 県	現 和気町消防団 副団長	まつ 松 本 哲 行 (54)
藍 綬	大 阪 府	現 松原市消防団 分団長	いせ 磯 野 均 (59)	藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 団長	おお 大 澤 俊 朗 (64)
藍 綬	大 阪 府	現 阪南市消防団 副団長	さし 岸 本 義 光 (61)	藍 綬	福 岡 県	現 北九州市戸畑消防 団 副団長	たけ 竹 内 昇 (63)
藍 綬	大 阪 府	元 豊中市消防団 副団長	きの 木 下 俊 一 (59)	藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 副団長	はやし 林 定 美 (67)
藍 綬	大 阪 府	現 交野市消防団 副団長	にし 西 川 俊 夫 (64)	藍 綬	福 岡 県	現 嘉麻市消防団 団長	まつ 松 岡 清 美 (67)

藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	たけ 竹 下 貴 丸 (62)	藍 綬	新 潟 県	現 新潟県女性防火ク ラブ連絡協議会 会長	さ 佐 藤 笑 子 (74)
藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 団長	やま 山 口 純 一 (51)	藍 綬	福 井 県	現 福井県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	お 小 川 英 子 (76)
藍 綬	大 分 県	現 由布市消防団 副団長	おお 太 田 英 一 (59)				
藍 綬	宮 崎 県	元 都城市消防団 団長	まご 莫 根 秀 春 (84)				
藍 綬	宮 崎 県	元 西都市消防団 団長	ゆま 弓 削 正 輝 (61)				
黄 綬	埼 玉 県	現 トーハツ(株) 代表取締役社長	かね 金 子 満 (66)				
黄 綬	兵 庫 県	現 (株)コアツ 代表取締役社長	やま 山 田 信 夫 (64)				
黄 綬	香 川 県	現 (株)福島商会 代表取締役社長	ふく 福 島 昭 子 (80)				
黄 綬	群 馬 県	現 東明電気工事(株) 取締役会長	ち 千 明 俊 彦 (66)				
黄 綬	埼 玉 県	現 坂戸防災(株) 代表取締役	うめ 梅 澤 将 明 (63)				
藍 綬	京 都 府	現 吉田防災設備(株) 代表取締役	あか 岡 本 陸 夫 (70)				
藍 綬	鹿 児 島 県	現 篠崎消防設備 代表者	しの 篠 崎 眞 鉄 (69)				



CTIF本部訪問と 女性消防隊員ワーキンググループ会議に参加して

女性消防団アドバイザー 長谷川 祐子



1 はじめに

第5回CTIF女性消防隊員ワーキンググループ（WG）会議に出席するためにフィンランドのヘルシンキに行ってきました。

第6回女性消防隊員WG会議を9月29日に東京にて開催することが決定しており、日本の女性消防団の現状についてプレゼンテーションすること、各国の女性達と友好を深めることを目的に出席させていただきました。

2 CTIF本部表敬訪問について

フィンランド会議の前にスウェーデンの本部を訪ねました。

CTIFは、1900年に設立され、ヨーロッパを中心とする37か国の消防協会等が参加する消防・救助に関する国際的なネットワーク組織です。

現在の事務局は今年1月、ドイツのベルリンから、新総裁のエリクソン氏が住むストックホルムのスウェーデン消防協会事務所内に移転しました。

エリクソン氏は参加国間の情報共有の場としてホームページを活用して、トレーニングのデータバンクを図りたいと情熱をこめてお話されました。

新しい技術に対しても大変熱心で、現在は“車両救助と新技術委員会”を立ち上げ、5月には第2回目の委員会を開催すること、秋の総会后、特別セミナーにはぜひ日本にも参加してほしいとのことでした。日本の参加を心から喜んで、アジアの核としての役割を期待していると語りました。これに答える形で生嶋常務から日本消防協会は独自に日中韓とのパイプを持ち、定期的な交流を行っていると言明がなされました。

またこちらでは、日本消防協会が興味ある事例として情報を集めている“パートタイム消防士”についての情報を収集いたしました。

スウェーデンの大きな都市ではフルタイム消防士のみが運営している消防署とフルタイムとパートタイム消防士が混在して運営している消防署



があります。都市部以外では殆どがパートタイムのみによる消防署です。過去42年間フルタイムの消防士として働き、空いている時間を自分が勤務している消防署以外でパートタイム消防士として働いてきたケント氏が我々の質問に答えてくれました。なぜ二つの消防士として働いたのかという質問には、やはり追加の収入を得ること。そして年金において上乘せの年金の受給資格が得られることと話してくれました。

実はフルタイムとパートタイム消防士との間には勤務内容や義務、保障などについて差はありません。ただ大きな論点となっているのが訓練期間の差です。フルタイムの訓練期間は2年間が確保されていますが、パートタイムは10週間のみです。そのために危険物に対する知識や技術に差が見られ、危険に晒されたりする事例が報告されたり、また消防自動車の出場途中での事故が頻発しており、緊急の課題となっているそうです。

スウェーデンの消防士の数は現在、フルタイム消防士が約5000名、パートタイム消防隊員は約10000名です。

3 第5回 女性消防隊員WG会議、フィンランド消防協会SPEK本部にて

(1) 会議の概要

4月10日、11日の2日間、会議が開催されました。日本のほか、ロシア(議長)、フランス、セルビア、スウェーデン、フィンランド、スロベニア、デンマークが参加し、各国の女性消防隊員の活動や課題について情報交換が行われました。会議での言語は英語でし



た。

最初にフィンランド消防協会SPEKの常務理事より挨拶があり、消防協会の活動についての説明がありました。フィンランドの消防協会は専門家で構成される国レベルの非営利組織です。消火と救助、そして火災やその他の事故予防、民間防衛をつかさどっています。現在フィンランドの消防は5000人のフルタイム消防士、4000人のパートタイム消防士そして10000人のボランティア消防団で成り立っています。またフィンランド政府の構造改革が推進され、2016年には消防の区域が現在の22から11区域に減少する予定ですがレベルは落とさないことなどが紹介されました。

デンマークからはLF消防署のFire Chief Soe消防長が発表。

グーグルマップを使って自分の消防



署の管轄地域、消防署、消防学校をスクリーンに映し出し説明を受けました。

消防士の仕事は基本的に男女の区別がないそうです。ただ女性隊員に関していえば一部の地域は少なく、男女のバランスが取れていないとのことで、理由の一つとして大都市への若い女性の人口移動が挙げられました。

消防士の養成期間ですが、国の財政問題などあり、一般に8週間（2か月）です。オフィサーのクラスは8週間あり、消防士の入試試験、体力基準などは各消防長が独自に決定することができます。

日本からは長谷川より「日本の女性消防隊員について」発表をしました。



女性消防職員・団員数の説明、女性消防隊員の活動の取り組みについて報告をしました。最後に日本でのWGについて、3年前の大震災のあと重要性が高まっている消防団活動においてその開催が有意義なものになることを確信していると伝えました。

フランスからは消防協会のMs. Chaubet氏が発表。

2012年の消防統計の説明がなされ、4,225,200回の出動、約330万人が救助



され、約7.4秒に1回出動がなされたこととなります。

フランスの女性消防隊員は32,198人。全消防士250,000人です。単純計算で8名の消防士の中に女性1名です。

現在女性消防士（常備）の上級職員3%、中級職員3%、士官6%～7%の比率です。これは2008年の統計と比べてあまり変化がありません。女性消防士の数が増えたことを考えれば著しい変化はないと言えます。

ボランティア消防団についていえば士官数などは女性の割合が増えています。

フランス女性消防の歴史：1976年の法改正により女性消防隊員の雇用を始めています。

主な問題点は次の5点です。

1. 女性に不適切な機材
2. 署内施設の問題（更衣室、シャワーラーム等）
3. 男性からの軽蔑
4. 業務内容は男女差なし
5. 採用試験（体力含む）訓練、試験、技術、装備は男性と同じものです。ただし牽引テストは男性のみ実施です。

現在の状況：ボランティアの募集はフランス政府も「女性がターゲット」と

考えております。女性は特に救急車内での救急業務において怪我人の世話や病人に大いに貢献しています。女性への配慮をした施設と新素材をつかった軽量の装備などが女性消防士のために考えられています。

ロシアからはMrs. Filippova緊急時心理ケアセンター副所長が発表。

緊急時心理ケアセンターは1999年に、心理学の新しい分野として緊急時のケアに従事するために設立されました。現在では緊急時心理ケアをする認証レスキュー隊としてロシア緊急事態省の機関です。大学でも講師を派遣しており緊急時に負傷者に心理ケアを提供しています。現在まで国内70件の緊急事態と国際17件の緊急事態に出動しています。緊急ストレス反応、突然の不幸、人口密集地におけるケア、自殺防止、ネガティブ反応の軽減などに尽力しているそうです。

スロベニアからは消防協会のMs. Marinka Cempre Turk氏が発表。

2014年2月に起こった冬の嵐（みぞれ）についてのビデオ上映でした。

みぞれの威力はすさまじく、木や車など外に置いてあるものをはじめ、送電タワーまでが凍りつき、倒れてしまった中で消防士たちが活躍したものを説明していました。電気が来ない生活の中、電気のこぎりを持ち道路に倒れた木を取り除き、道路の使用を可能にしたり、国際機関や国内の助けが停電のなか、遅れているという状況下での復旧作業を続けていました。又、雪と氷が溶けた後発生した洪水による救

助も行いました。10日に及ぶこの作業の中、女性消防士たちは、避難所で本部で事務サポートを行い、消防士たちの食事の手配を行い、スケジュールのプランを立てるなどのサポートなどを行いました。また消防服の洗濯や無線機のバッテリーの交換やメンテをしたり、被災地域の人々のお世話もしたそうです。

スウェーデンからはセーテルテルン消防局消防隊員Mrs. Mona Hjortzberg氏が発表。

1997年から消防への女性参加が認められ、自分の消防局には現在12名の女性がいます。問題点は次の5点です。

1. 男性からの態度（若い消防士からが問題）
2. 施設、更衣室、
3. （体に合わない）消防服
4. 装備
5. 出産前、出産後の状況

課題として調査によって示されたものは

1. ハラスメント、いじめ
2. 男性より女性は長時間労働をしている
3. 女性が付加訓練を受けて男性より仕事できることを示したい。
4. 女性の地位は上司の態度に左右される。

スウェーデンでは2007年常備女性消防隊員のための組合ができました。（HKBM）

第1回目の会議も開催され結果、女性消防士が妊娠の際は消火と車両の運転をしないようにという法律が制定さ

れました。2010年には女性消防ネットワークが設立されました。年度会議をひらき、ネットワーク会議もはじめ、Facebookも活用されます。Mrs. Mona Hjortzberg氏は3人の可愛い子供の母親でもあります。なかなかの闘士で妊娠時期を除けば男女の能力差はあり得ないときっぱりと語ってくれました。

フィンランドからは国家警察プロジェクトマネージャ Mrs. Mira Leinonen氏が発表。

身分はフィンランド消防協会の一員ですが現在はEOC緊急オペレーションセンターでの消防・警察・救急の発信職を一つにまとめる仕事をしています。これは予算の大幅カットが求められるため、国家プロジェクトとして実施中です。2016年に完成予定のプログラムの紹介がありました。

(2) CTIF女性消防WGからCTIF女性消防委員会Committeeへ

ロシアの議長よりこの女性消防ワーキンググループWGの更なるレベルアップの委員会格上げへ向け、みな協力するとの同意がなされました。

(3) 日本開催について

生嶋常務より2014年9月29日、東京において第6回WGを開催する用意があることが発表されました。日本でのWGはこの会議の一日目から参加者の間で話題になっていたのも、皆さん待ち構えている様子でした。

場所は東京の都市センターホテルを

予定している。WG参加者には同日開催するシンポジウムのパネラーとしての参加（原則1か国1人）を呼びかけたい。このホテルには国際会議の設備が準備されていること。東京等視察も予定されていることなどが説明され、今回参加者が十分確定できれば、決定事項として計画を進めていくとのことでした。会場確認の結果 ロシア、スウェーデン、デンマーク、フランス、フィンランド、セルビアの6か国が参加表明しました。これに日本を加え計7か国以上の参加が見込まれることとなり開催することが決まりました。

4. 終わりに

女性の消防活動について学ばせていただく機会を持つ事ができ、国は違っても共通の課題があり、その解消にそれぞれに取り組んでいるのがわかりました。

英語を母国語としないヨーロッパ各国の消防関係者が英語でプレゼンテーションを行い、質問をし、回答をするということに言語能力の高さと英語の必要性を感じました。非常に積極的、そして決して発表の機会を逃さない姿勢は特にスロベニアの出席者に教えられました。英語がスムーズに話せないけど、発表の機会は逃さない。だからビデオで英語をテロップに記入したうえで参加してきたのです。日本人の国際化や英語の能力などは昔から指摘されている通りですが、片言の英語でも恥ずかしいことはないとよくわかります。チャンスを逃さずに意見を述べていく事が大切なだと学びました。

風水害に対する備え

総務省 消防庁 防災課

我が国では毎年、台風や梅雨前線などの影響により多量の降雨があります。昨年は、「平成25年7月28日の島根県及び山口県の大雨」、「平成25年8月9日からの東北地方を中心とする大雨」や、台風第18号、台風第26号等による大雨で洪水や土砂災害が発生し、甚大な被害が発生しました。

洪水

流域に降った大量の雨水が河川に流れ込み、特に堤防が決壊すると、流域では大規模な洪水被害が発生します。また近年、短期間に局地的に激しい雨が降り注ぎ、山間部や都市部の中小河川に一気に流れ込み、平常時には川遊びができるような穏やかな河川が増水して勢いを増し、氾濫して流域に甚大な被害をもたらす事例が各地で発生しています。

平成25年6月から8月の大雨では、局地的に降った非常に激しい雨等により、中小の河川が増水し、岩手県、秋田県、島根県、山口県を中心に浸水被害が生じました。

土砂災害

大雨により、地中に含まれる水の量が多くなると土砂災害が発生しやすくなります。大雨のときには、土石流、がけ崩れ、地すべりなどの土砂災害に厳重に警戒する必要があります。

平成25年9月の台風第18号では、四国から北海道の広い範囲で大雨となり、浸水被害や土砂災害による被害がもたらされました。また、平成25年10月の台風第26号では、東日本から北日本の太平洋側を中心に大雨となり、特に東京都大島町では記録的な大雨により、大規模な土砂災害が発生しました。これらの災害により、多数の死傷者・行方不明者が生じました。

局地的な大雨による災害

近年は、短時間強雨の回数が増加傾向にあり、短時間に局地的に非常に激しい雨が降ることで中小河川の急な増水、アンダーパス※の浸水等を引き起こし、被

害を生じさせる事例が多く発生しています。
※アンダーパス：交差する鉄道や他の道路などの下を通過するために掘り下げられている道路などの部分をいいます。周囲の地面よりも低くなっているため、大雨の際に雨水が集中しやすい構造となっています。

早めの避難が命を救う

風水害による人的被害を減らすには、早めの避難が欠かせません。市町村から避難勧告・指示などの発令があった場合は、すぐに安全な場所に避難しましょう。また、気象情報や市町村からの情報等をチェックし、少しでも危険と思われる場合は速やかに避難することが重要です。

危険が迫る前に避難を完了しておくことが一番ですが、暗い時間帯や、雨が降る中、避難をしなければならない場合も考えられますので、避難所の位置や、避難所までの道筋を日頃から確認しておくことが重要です。

浸水等により避難所までの歩行等が危険な状態になった場合には、生命を守る最低限の行動として、自宅や隣接する建物の2階以上へ緊急的に避難するなど、臨機応変な対応をとる必要があります。

災害による被害を減らすためにできること

災害による被害を最小限にとどめるためには、地域住民の皆さん一人ひとりが災害に対して日頃から備えておくことが必要です。

また、災害時の避難において支援を要する方々が迅速・安全に避難できるように、いざという時に誰が支援し、どの段階でどうやって避難するかなど、具体的な避難支援計画を定めておくことが重要です。

都道府県や市町村では、総合防災訓練や防災に関する講演会・展示などのイベントを実施しています。また、地域の自主防災組織でも防災訓練が実施されていますので、こうしたイベントや訓練にぜひ参加して、いざという時に取るべき行動などを今一度確認してみてください。



平成25年の島根県及び山口県の大雨の被災現場
(島根県津和野町提供)



平成25年台風第26号の被災現場（東京都大島町）
(さいたま市消防局提供)

問い合わせ先

消防庁国民保護防災部・防災課 中島、山本
TEL：03-5253-7525

「消防団をより多くの人達に知ってもらいたい」 消防団情報プラザ リニューアル

(公財)日本消防協会

消防団情報プラザは、平成20年10月に消防団情報発信の拠点として日本消防会館1階のロビーに設置しました。

そこでは、消防団の機能紹介、消防団員及び市民の交流促進、消防団員加入への興味促進のため、パネルコーナー、映像コーナー、展示物コーナーを設け、わかりやすく、また、親しみやすい空間としての展示を行ってまいりました。

この度、日本消防協会は公益財団法人となり、これまでの日消の活動はもとより、さらに消防団等の活動や存在のPRにさらなる力を入れて行く手始めとして、消防団情報プラザをリニューアルしましたのでご紹介いたします。



消防団情報プラザは、写真、図表等による展示のほか、デジタル映像により、多くの情報発信を行っています。

常設展

1 地域防災力の充実強化

消防団の新たな発展・命を守る地域防災力の強化
消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が成立しました。

2 我が国の消防

消防団員が減っている
消防は市町村が担当しています、など

3 消防団の活動状況

こんな活動、やっています
消防団は自ら街を守るため、あらゆる災害・事故に出動しています、など



- 4 女性消防団の活動
私たちががんばっています
女性消防団員は年々増加しています、など
- 5 消防団員募集
消防団員を募集してます
地域の安心と安全を守るため、あなたにもできることがあります、など
- 6 消防応援団
応援していただいています
芸能界、スポーツ界等の著名人有志がボランティアで消防団を応援してくれています、など
- 7 日本消防協会の歩み
全国の消防と共に歩んでいます
- 8 日本消防協会の役割と活動
消防団など全国の消防を応援しています
- 9 日本消防協会の国際交流事業
世界に広がる消防
- 10 消防育英会
消防遺児を応援します
- 11 民間防災組織の育成と活性化
大事です、ひとりひとり、そしてみんなの協力
民間防災組織の育成と活性化、など



【日本消防の歩み】

江戸から、明治、大正、昭和、そして平成の現在までの日本消防の歴史を、写真にて上部スパンに時系列で展示。災害や装備の変遷がよくわかります。

特別展

【東日本大震災と消防活動】



【消防団120年・自治体消防65周年記念大会】



平成26年度 消防個人年金海外視察のご案内

地中海をはさむ国、モロッコとスペイン、その4つの世界遺産を巡る旅

モロッコ・スペイン 8日間

モロッコの迷宮を歩き疲れたらミントティーでほっと一息・・・



(公財)日本消防協会では、消防個人年金事業の一環として、消防個人年金加入者等とその家族を対象とした海外視察を企画しましたのご案内いたします。

第18回となる今回の海外視察は、モロッコとスペインの4つの世界遺産を巡ることとしました。

参加者の皆さまが気軽に安心してご参加いただけるように、次の点に配慮した内容となっております。

- (1) 日本消防協会の職員および添乗員が同行いたします。
- (2) ポイントをおさえながらも、ゆとりをもった視察行程となっております。
- (3) 宿泊はすべて、4ツ星以上のホテルをご用意いたします。
- (4) 全行程において、行き届いたお食事をご提供いたします。
- (5) 細部にまでおける良心的なサービスをご提供いたします。

1 日 時

平成26年11月23日(日)から
11月30日(日)まで

2 視察先および日程

モロッコ・バルセロナ(7泊9日)

*詳細は日程表をご参照ください。

3 参加費用

おひとり様 393,000円

- (1) 航空運賃(エコノミークラス)・空港税・燃油サーチャージ・団体旅行傷害保険等
- (2) 宿泊料・食事代等

注) 宿泊は原則2人1部屋となります。一人部屋をご希望される場合は追加料金が必要となります。

4 参加人数

30名様程度

注) 参加希望受付は、平成26年8月末日までとさせていただきますが、定員となり次第締め切らせていただきます。

5 問い合わせ先

下記連絡先まで電話またはFAXにてご連絡ください。

旅行業者より資料と申込書をお届けいたします。

【問い合わせ先】

(公財)日本消防協会年金共済部

TEL: 03-3503-3079

FAX: 03-3503-1480



地中海をはさむ国、モロッコとスペイン、その4つの世界遺産を巡る旅

	月 日	都 市	時 刻	交通機関	行 程 内 容	食 事	宿 泊
1	11月23日 (日)	東京(成田)発 カサブランカ着	午前 夜	航空機 専用車	空路ヨーロッパ都市経由カサブランカへ ※羽田発関空経由となる場合がございます。 到着後ホテルへ(夕食はホテルにて軽食)	D: ホテル	カサブランカ
2	11月24日 (月)	カサブランカ カサブランカ発 マラケシュ着	終日	専用車	カサブランカ終日市内観光 ハッサン2世大モスク、モハメッド5世広場、 アンファの町の丘、国連広場、ハーブス歴史 地区など 陸路マラケシュへ移動(約2時間半238km) 夕食は地中海料理	B: ホテル L: レストラン D: レストラン	マラケシュ
3	11月25日 (火)	マラケシュ アイト・ベン・ハッドゥ マラケシュ	終日	専用車	世界遺産アイト・ベン・ハッドゥ観光 (隊商交易の中継地として栄えた地。カスバ と呼ばれる邸宅が数多く建築され、映画「ア ラビアのロレンス」のロケ地) *片道約2時間30分 夕食は騎士団ファンタジーショーにご案内しま す。	B: ホテル L: レストラン D: レストラン	マラケシュ
4	11月26日 (水)	マラケシュ カサブランカ	午前 午後	専用車 専用車	世界遺産マラケシュ市内観光 (サーティン朝の墓、バビア宮殿、クトピアの 塔、メナラ庭園など) 昼食後カサブランカへ移動 夕食はモロッコ料理にて	B: ホテル L: レストラン D: レストラン	カサブランカ
5	11月27日 (木)	カサブランカ バルセロナ	朝 午後	航空機 専用車	空路バルセロナへ(ヨーロッパ都市経由) 到着後バルセロナ市内観光 (世界遺産サグラダファミリア、カサ・ミラ、モ ンジュイック展望台、コロンブス記念塔など) 夕食はパエリア・シーフード料理	B: ホテル L: レストラン D: レストラン	バルセロナ
6	11月28日 (金)	バルセロナ タラゴナ バルセロナ	終日	専用車	市内消防署視察(予定) 地中海に面した古代ローマの町、世界遺産 タラゴナ観光 (円形劇場、ラス・ファレーラス水道橋、サント・ アントーニの門、カテドラルなど) ※バルセロナより約1時間半 夕食はフラメンコディナーショー	B: ホテル L: レストラン D: レストラン	バルセロナ
7	11月29日 (土)	バルセロナ発	午前	航空機	空路ヨーロッパ都市経由帰国	B: 軽食 L: 機内 D: 機内	機内泊
8	11月30日 (日)	東京(成田)着	午前		到着後解散 ※関空経由羽田着となる場合がございます。	B: 機内	



群馬県消防協会及び栃木県消防協会に 災害対策支援金を交付

(公財)日本消防協会

平成26年4月15日に、群馬県桐生市の黒川ダム付近山林で発生した林野火災により、群馬県桐生市並びに栃木県足利市で大きな被害が生じました。この災害に対し、多くの消防団員や関係機関によって、懸命な消火活動が行われました。

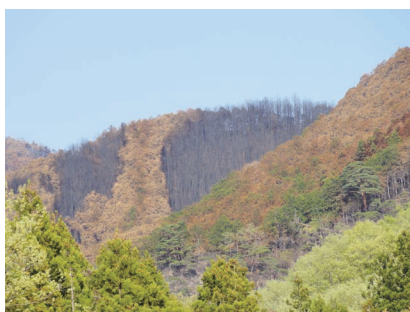
公益財団法人日本消防協会では、災害対策支援金要綱に基づき、災害活動に従事した消防団員を支援するため、公益財団法人群馬県消防協会並びに公益財団法人栃木県消防協会を通じ各消防団に災害対策支援金を交付しました。



桐生市消防団長へ災害支援金を贈呈



被害状況説明



被害状況



現場視察



被害状況



被害状況

消防団の活動を支援する—日本消防協会オリジナル商品



公益団
体

日本消防協会 <http://www.nissho.or.jp>

日本消防協会は、社会の防災を防止し、人類共同の福祉増進に寄与することを目的として、全国百万人の消防団員及び消防職員を対象に福利厚生、弔慰救済、表彰等を行うほか、消防施設の拡充強化、防火思想の普及徹底など数多くの事業を行っている団体です。

日本消防協会は、消防団員等の消防技術向上や士気高揚を図ることを目的として、消防団幹部や幹部候補を対象とした特別研修や、毎年交互に「全国消防操法大会」と「全国女性消防操法大会」を開催しています。また、優良消防団（職）員の表彰や、大規模災害が発生し、多数の消防団員が長期間にわたり災害活動に従事した場合には、災害対策支援金又は非常用食料を交付して活動を支援するなど、積極的な消防団活動等への支援を行っています。

日消/PRIDE CROSSエアテックIIシャツ

新商品

背中

左胸デザイン
フロント

生地拡大
生地裏側

エアテックIIシャツ
ハニカムメッシュ構造
快適な吸汗速乾素材

商品番号
S 47001
M 47002
L 47003
LL 47004
3L 47005

[カラー]ネイビー
[素材]ポリエステル100%

2,570円(税込)

ウェアサイズ	cm	S	M	L	LL	3L
身幅	47	50.0	53.0	56.0	59.0	
着丈	67	69.0	72.0	75.0	78.0	

日消/火の用心VFエアテックIIシャツ

新商品

背中

左胸デザイン
フロント

生地拡大
生地裏側

エアテックIIシャツ
ハニカムメッシュ構造
快適な吸汗速乾素材

商品番号
S 47006
M 47007
L 47008
LL 47009
3L 47010

[カラー]ネイビー
[素材]ポリエステル100%

2,570円(税込)

ウェアサイズ	cm	S	M	L	LL	3L
身幅	47	50	53.0	56.0	59.0	
着丈	67	69	72.0	75.0	78.0	

日消/VF桜エアテックIIシャツ

新商品

背中

左胸デザイン
フロント

生地拡大
生地裏側

エアテックIIシャツ
ハニカムメッシュ構造
快適な吸汗速乾素材

商品番号
S 47011
M 47012
L 47013
LL 47014
3L 47015

[カラー]ネイビー
[素材]ポリエステル100%

2,570円(税込)

ウェアサイズ	cm	S	M	L	LL	3L
身幅	47	50.0	53.0	56.0	59.0	
着丈	67	69.0	72.0	75.0	78.0	

日消/ネクタイピン桜

商品番号
60404
60401
60403

シルバー 46004
レッド 46001
ピンク(女性用) 46003

[サイズ]5cm
[材質]真鍮ニッケルメッキ

1,020円(税込)

ラッカーエポ仕上げ
ラッカーエポ仕上げ

原寸大
原寸大

新色 女性用登場!!

日消/火の用心VFマフラータオル

商品番号 39101

[サイズ]115cm×20cm
[素材]綿100%

870円(税込)

吸水性の高い綿100%素材を使用。柔らかく肌触りのよいタオルです。

生地拡大

日消/アポロキャップ 60520

刺繍マーキングで仕上げた定番のアポロキャップ。

刺繍部分拡大

フリーサイズ

対応サイズ/58cm~60cm

商品番号
60520
60521

オールニットタイプ 60520
バックメッシュタイプ 60521

2,870円(税込)

[カラー]ネイビー [サイズ]フリー(58cm~60cm)
[素材]ポリエステル100%

オールニットタイプ 60520 冬用
バックメッシュタイプ 60521 夏用

サイズ調整アジャスター付

日消/JFAsポータタオル

商品番号 12892

[サイズ]110cm×40cm
[素材]綿100%

1,230円(税込)

■商品についてのお問い合わせ・ご注文は…
Signal 株式会社 シグナルOS

TEL. 0120-607-444

FAX. 0120-238-119

受付時間/9:30~17:30 ■休業日/土・日・祝日(通話料金不要)

■FAX専用注文書をご利用下さい。(通話料金不要)

うちの

名物団員



京
都
府

京丹波町消防団 丹波支団 第1分団第1部 班長

金延 英樹

京都府の中央部、緑に囲まれた自然豊かなまちに、田舎暮らしに憧れて京都市内から引越してこられたのが、金延班長です。

地域の輪に入ろうと消防団に入団した金延さんは、そこで出会った仲間たちと映画の上映会や大運動会を企画し、地域の活性化に取り組むようになりました。

趣味で始めたビデオカメラは、映像コンクールで入賞する腕前です。今は、地区行事や消防団活動の様子を撮影し、地元ケーブルテレビ



に投稿して地域の情報を積極的に発信しています。

子供たちが誇りに思えるふるさとを残したいと、日々活動しています。

千
葉
県

御宿町消防団 副団長

竹永 賢

地元を愛する竹永さんは、自分の地域は自分で守るという精神を、子供たちに伝承するために「守れ我が町未来の消防団」をテーマに消防学習会を企画して、未来の消防団確保のために日々努力を重ねています。

また、建設業を営んでいることもあり、表彰を受ける低学年の学生が、賞状を受ける時に背が低く戸惑っているのを見て、それを改善するために踏み台を製作したり、

消防操法用の集合線なども職人としてのプライドから真直ぐに削った木材を埋め込んでくれたり、多くの人のために活躍しています。

「自分の技能を信じて納得できるまで」が口癖で、念入りに活動する姿は常に団員の模範となるみんなのリーダーであります。





梅田 誠

「水と緑あふれるオアシスのようなまち」で知られる戸田市から、第3分団梅田誠さんを紹介いたします。梅田さんは、市内にある梅の湯接骨院の院長として、また梅の湯デイサービスを経営し、地域密着型のリハビリ介護を目指し、地域に貢献しています。その傍ら、19歳の時から始めたアームレスリング、「筋肉は一日にして成らず」という持論を糧に鍛錬を積み重ね、全日本社会人アームレスリング選手権大会では、80キロ以上級で左右とも優勝した経歴の持ち主です。「有事の際は、微力ながらわが街を守りたい。」と持ち前の剛腕に磨きをかける名物団員です。

み重ね、全日本社会人アームレスリング選手権大会では、80キロ以上級で左右とも優勝した経歴の持ち主です。「有事の際は、微力ながらわが街を守りたい。」と持ち前の剛腕に磨きをかける名物団員です。



瀬良 圭司

福山市最北端の飲食店、喫茶「姫谷」をご家族で営んでおられる瀬良圭司団員を紹介いたします。このお店の一番人気メニューはなんとと言ってもステーキ定食！これは本当に美味しい！彼の作る料理と、奥さんの笑顔が素敵なお店です。ただ、奥さんの悩みは、災害発生と同時にお店の裏の器具庫から車両に乗って現場に。問題はお店に残されたお客様ですと、奥様のコメント（笑）。5月からは商工会が始める消防団サポート事業の登録店になっていただけます。24時間地元にはなくてはならない、大変貴重な団員のお一人です。

様のコメント（笑）。5月からは商工会が始める消防団サポート事業の登録店になっていただけます。24時間地元にはなくてはならない、大変貴重な団員のお一人です。



塩 丈浩

南相馬市からは、塩 丈浩班長を紹介いたします。塩班長は、消防ポンプ車を所有する鹿島区団第一分団機動部に所属し、有事にはいち早く現場に駆けつけ、率先して活動に従事されます。また、消防活動に真摯に取り組む姿勢が評価され、昨年度は地域防災講演会や全国消防団員意見発表会の発表者に推薦され、意見発表を行いました。

一見硬そうに見える塩さんですが、ご実家はなんとタイ焼き屋さん。ご本人も、本当はやさしい、素敵なお兄さんです。

消防団の広場

千葉県

「未来をひらけ女性消防団員」



浦安市消防団
団員

芹澤 恵美



私たちの浦安市は、人口約16万人で東京湾奥部に位置し、東京都と旧江戸川を隔て接している4キロ四方の小さい、「東京ディズニーリゾートのまち」として全国的に有名な街です。

私が浦安市消防団に入ったきっかけは、仕事にお客様がAEDを使う様な緊急事態が発生した際に、責任者として落ち着いて判断し、指示を出したいと思ったからです。入団してから指導員講習を受け、今では市民の皆様に応急手当の指導を

しています。

私たち女性消防団員の活動は、応急手当指導の他にもさまざまな活動があります。

消防団に入団して4年。30歳を越えてもまだ若手と言う事で、昨年、横浜市訓練センターで開催された第21回全国女性消防操法大会に、千葉県代表として出場させていただきました。昨年の2月から10月までの間、寒い日も暑い日も週2日の訓練をした結果、47都道府県中6位という成績を残すことができました。

職場の仲間たちも理解してくれ、サポートしてくれたからこそ、訓練に打ち込めたと思っています。賞をいただいた事は大きな喜びであり、名誉でもあります。なかなか出来なかったダイエットが、知らず知らずのうちに効果があったことは、更に自分としての喜びでした。



今年は、第20回全国女性消防団員活性化ちば大会が、千葉県浦安市で開催されます。
(大会テーマ)

女性の力で地域を守る
～ちば から全国へ地域防災の輪を広げよう～



全国で活躍する女性団員の皆さんと交流できることを、今から楽しみにしています。

平成26年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

6月の日本消防協会関係行事

6月11日(水) (午前)	日本消防協会役員会議(正副会長会議、評議員会、理事会)
6月11日(水) (午前)	全日本消防人共済会役員会議(総代会、理事会)
6月13日(金) (午前)	消防育英会選考委員会
6月19日(木) (午前)	消防育英会評議員会

編集後記

新年度から1ヶ月が経過しました。新消防団員の皆さんは各種訓練や春の演習などへの参加、また、中には林野火災などの現場に出動し、消火活動をすでに経験した方もいるのではないのでしょうか。

地域防災を担うという責任と休日を返上しての訓練・演習に負担を感じている方もいると思います。

しかし、こんな話を聞いたことがあります。消防団の夫が、消防団の集まりに行く前は億劫がっていたけど、帰ってきたときには、「色々な職業の人と、自分の住む地域の色々な話を聞いたり話したりするのが楽しい。自分も地域に馴染んでいく。」と言って、消防団の集まりを楽しむようになった。という話です。

地域の中には、様々な集まりがあると思いますが、その中でも、消防団は目的と方向性を共有し同じ活動を行うため、多種多様な職業の方々とも、人と人の繋がりを得やすいものと思います。また、地域を知るうえでは、先輩消防団員の方々の経験談等が非常に重要な事柄になります。経験談等には、災害によって被害を受けた箇所や注意すべき点等、その地域に特化した災害の特徴を捉えた情報を多く含んでいます。そこでの経験や失敗の積み重ねから導き出された対処法は、地域には欠かすことができません。

消防団は、人と人の繋がりと地域との繋がりを得ることができる潤滑剤の役割を担っていると思います。新消防団員の皆さんは、この青葉芽吹き清々しい5月に親睦を大いに深めて、先輩消防団員と同じく地域に欠かせない事柄を伝承できる地域に欠かすことのできない存在になって行くものと思います。(T.S)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十七巻第五号
平成二十六年五月五日印刷
平成二十六年五月十日発行

編集人 生嶋 文昭

発行所 (財)日本消防協会
東京都港区虎ノ門二丁目九番十六
電話 〇三(三)一四八二(代)

印刷所
東京都文京区湯島三丁目二十一番十二
日本印刷株式会社
電話(三三三)六九七一(代)

生活協同組合 全日本消防人共済会

「火災共済金は1500倍補償」

B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金
※共済への加入にあたり、組合員となっていたためのお出資金が別途必要となります。



共済金のお支払い対象 B型・C型共通

火災共済金：火災、落雷、爆発・破裂

風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所在地 東京都港区虎ノ門 2-9-16
日本消防会館 6階

連絡先 TEL 03-3503-1439

FAX 03-3503-1480

E-Mail: kyousaikai@nissho.or.jp

URL: <http://www.shouboujin.or.jp>

消防個人年金

消防個人年金は、将来の自分の為の積立年金制度で、(公財)日本消防協会が第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。

消防個人年金を紹介します

- 1 予定利率は**1.25%**です。
- 2 **月払、半年払、月払と半年払の併用**から払い込み方法をご選択頂き、**掛金1万円**(ゆうちょ銀行は5千円)からご加入頂けます。また、まとまった資金を**一時払**することもできます。
- 3 年金は、**年4回**で受給して頂けます。
- 4 **退団・退職後も継続**できます。



そのほか詳しくは、ホームページをご覧ください。